

# 平成27年度 食育に関する調査結果報告書



平成 27 年 10 月  
広島市食育推進会議



# 目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	調査項目	1
4	回収結果	1
5	分析方法	1
6	調査結果の表示方法	1
II	回答者の属性	
1	性別	2
2	年代別	2
3	職業等状況	2
4	世帯構成	3
III	調査結果 ※広島市食育推進計画に掲げている項目のみ、目標値を表記	
1	「朝食」について	4
(1)	朝食の摂取状況	4
(2)	朝食の内容	5
(3)	朝食の準備方法	12
2	食品表示・食品衛生について	14
(1)	食品表示の確認	15
(2)	衛生に関する実践度	16
(3)	食の「安全・安心」に関して今後充実してほしい情報提供の方法	17
3	わ食について	21
(1)	「わ食の日」の認知度	21
(2)	「わ食」の実践度	23
4	よくかんで味わって食べることについて	29
(1)	「嚙ミング30運動」の認知度	29
(2)	よくかんで味わって食べる食生活の実践度	31
(3)	よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと	33
5	健全な食生活の実践について	37
(1)	「健全な食生活」の実践度	37
(2)	ふだんの食生活で心がけていること	39
IV	調査票	44

# I 調査の概要

## 1 調査目的

第3次広島市食育推進計画を策定するにあたり、現計画の最終年度となる平成27年度に調査を行い、事業効果や食育に関する市民の意識等を把握し、今後の推進計画作成の基礎資料とする。

## 2 調査設計

- (1) 調査対象 平成27年(2015年)3月31日現在広島市に在住する満15歳以上の男女
- (2) 標本数 3,080人
- (3) 抽出方法 広島市住民基本台帳より無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送調査
- (4) 調査期間 平成27年(2015年)5月19日(火)～6月8日(月)

## 3 調査項目

- (1) 朝食(摂取状況、内容、準備方法)について
- (2) 食品表示・食品衛生について
- (3) わ食(和食・輪食・環食)について
- (4) よくかんで味わって食べることについて
- (5) 健全な食生活の実践について

## 4 回収結果

回収数1,261人(回収率40.9%)

性別	年齢区分	標本数	回収数	回収率(%)
男 性	15～19歳	140	35	25.0
	20～24歳	140	24	17.1
	25～29歳	140	27	19.3
	30～34歳	140	34	24.3
	35～39歳	140	38	27.1
	40～44歳	140	44	31.4
	45～49歳	140	36	25.7
	50～54歳	140	49	35.0
	55～59歳	140	60	42.9
	60～64歳	140	60	42.9
	65歳以上	140	64	45.7
小計		1,540	471	30.6
女 性	15～19歳	140	44	31.4
	20～24歳	140	49	35.0
	25～29歳	140	56	40.0
	30～34歳	140	60	42.9
	35～39歳	140	73	52.1
	40～44歳	140	81	57.9
	45～49歳	140	69	49.3
	50～54歳	140	70	50.0
	55～59歳	140	74	52.9
	60～64歳	140	90	64.3
	65歳以上	140	68	48.6
小計		1,540	735	47.7
無回答			55	4.4
合計		3,080	1,261	40.9

## 5 分析方法

広島市の男性・女性別年齢別人口(平成27年3月31日現在)に応じて補正を行った。

## 6 調査結果の表示方法

- (1) 集計結果の割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答が可能な設問は、全ての割合の合計が100%にならない場合がある。

## Ⅱ 回答者の属性

### 1 性別

区分	件数 (人)	割合 (%)
男性	471	37.4
女性	735	58.3
無回答	55	4.4
合計	1,261	100.0

### 2 年代別

区分	件数 (人)	割合 (%)
15～19歳	80	6.3
20歳代	157	12.5
30歳代	214	17.0
40歳代	239	19.0
50歳代	263	20.9
60歳以上	304	24.1
無回答	4	0.3
合計	1,261	100.0

### 3 職業等状況

#### (1)性別

区分	全体		男性		女性	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
勤労者	775	61.5	349	74.1	397	54.0
家事従事者	256	20.3	8	1.7	239	32.5
学生 (中学生・高校生)	49	3.9	21	4.5	27	3.7
学生 (大学生・短大生・専門学校生)	48	3.8	19	4.0	28	3.8
その他	120	9.5	72	15.3	38	5.2
無回答	13	1.0	2	0.4	6	0.8
合計	1,261	100.0	471	100.0	735	100.0

## (2)年代別

区分	全体		勤労者		家事従事者		学生 (中学生・高校生)		学生 (大学生・短大 生・専門学校生)		その他	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
15～19歳	80	6.3	5	0.6	-	-	47	95.9	27	56.3	1	0.8
20歳代	157	12.5	105	13.5	21	8.2	1	2.0	19	39.6	10	8.3
30歳代	214	17.0	158	20.4	49	19.1	-	-	-	-	7	5.8
40歳代	239	19.0	180	23.2	49	19.1	-	-	-	-	8	6.7
50歳代	263	20.9	211	27.2	38	14.8	-	-	-	-	13	10.8
60歳以上	304	24.1	116	15.0	99	38.7	-	-	1	2.1	81	67.5
無回答	4	0.3	-	-	-	-	1	2.0	1	2.0	-	-
合計	1,261	100.0	775	100.0	256	100.0	49	100.0	48	100.0	120	100.0

## 4 世帯構成

## (1)性別

区分	全体		男性		女性	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
ひとり暮らし	154	12.2	53	11.3	91	12.4
夫婦のみの世帯	301	23.9	123	26.1	165	22.4
18歳未満の子どもがいる2世代世帯	375	29.7	128	27.2	237	32.2
その他	122	9.7	47	10.0	71	9.7
無回答	309	24.5	120	25.5	171	23.3
合計	1,261	100.0	471	100.0	735	100.0

## (2)年齢別

区分	全体		ひとり暮らし		夫婦のみの 世帯		18歳未満の子ども がいる2世代世帯		その他	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
15～19歳	80	6.3	3	1.9	2	0.7	48	12.8	27	22.1
20歳代	157	12.5	38	24.7	15	5.0	35	9.3	14	11.5
30歳代	214	17.0	14	9.1	31	10.3	123	32.8	15	12.3
40歳代	239	19.0	20	13.0	30	10.0	131	34.9	20	16.4
50歳代	263	20.9	35	22.7	68	22.6	35	9.3	18	14.8
60歳以上	304	24.1	44	28.6	155	51.5	2	0.5	27	22.1
無回答	4	0.3	-	-	-	-	1	0.3	1	0.8
合計	136	100.0	282	100.0	396	100.0	457	100.0	6	100.0

### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 「朝食」について

(1) 朝食の摂取状況 【目標数値：20歳代男性…85%以上、30歳代男性…85%以上】

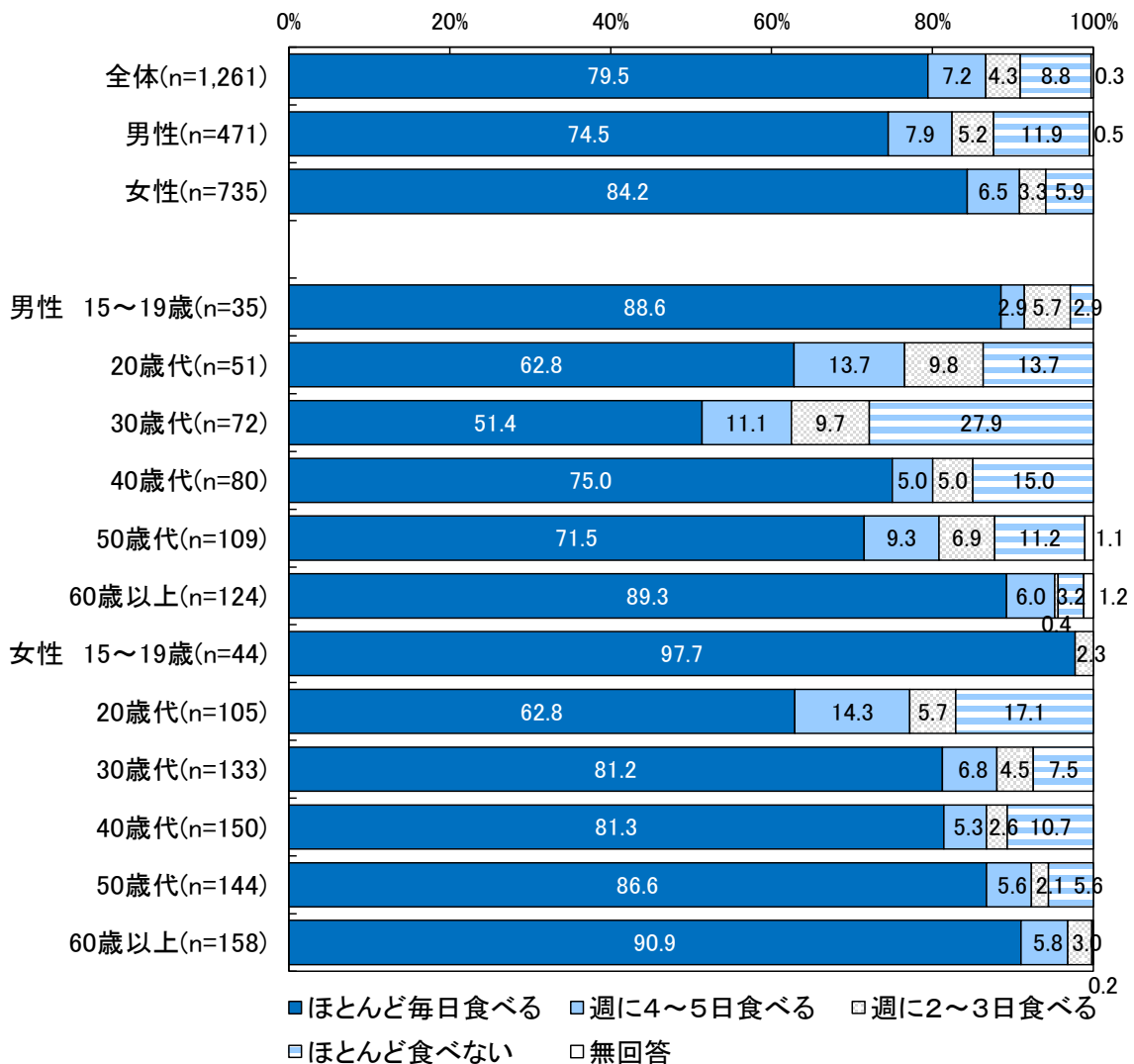
「朝食を食べている」（「ほとんど毎日食べる」＋「週に4～5日食べる」）者の割合は、全体では86.7%となっている。

性・年齢別にみると、「朝食を食べている」者の割合は、女性(90.7%)に比べ男性(82.4%)が8.3ポイント低く、30歳代男性(62.5%)、20歳代女性(77.1%)で最も低くなっている。

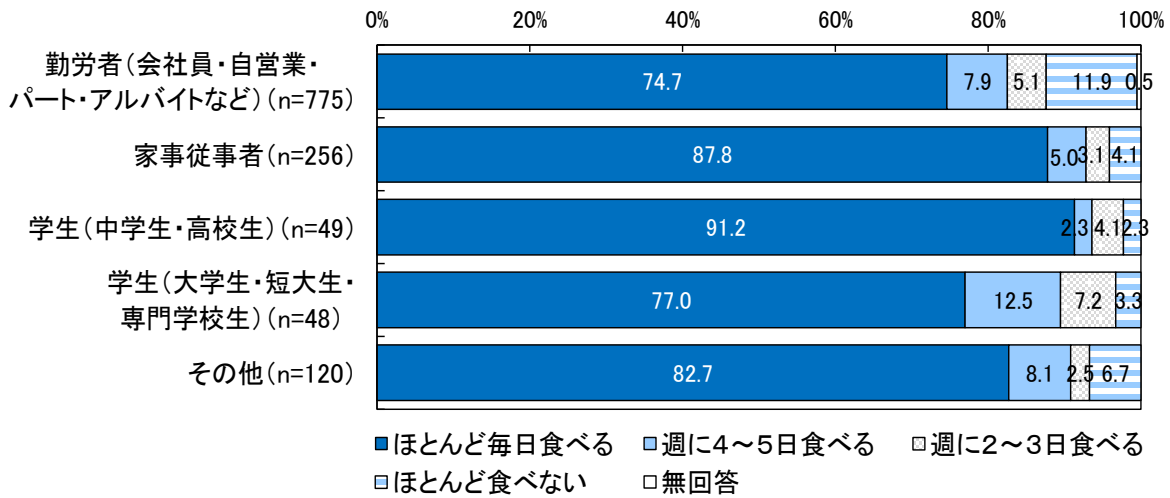
職業別にみると、「朝食を食べている」者の割合は、勤労者（会社員・自営業・パート・アルバイトなど）(82.6%)が全体平均を下回っている。

世帯構成別にみると、「朝食を食べている」者の割合は、ひとり暮らし(82.5%)がやや低くなっている。

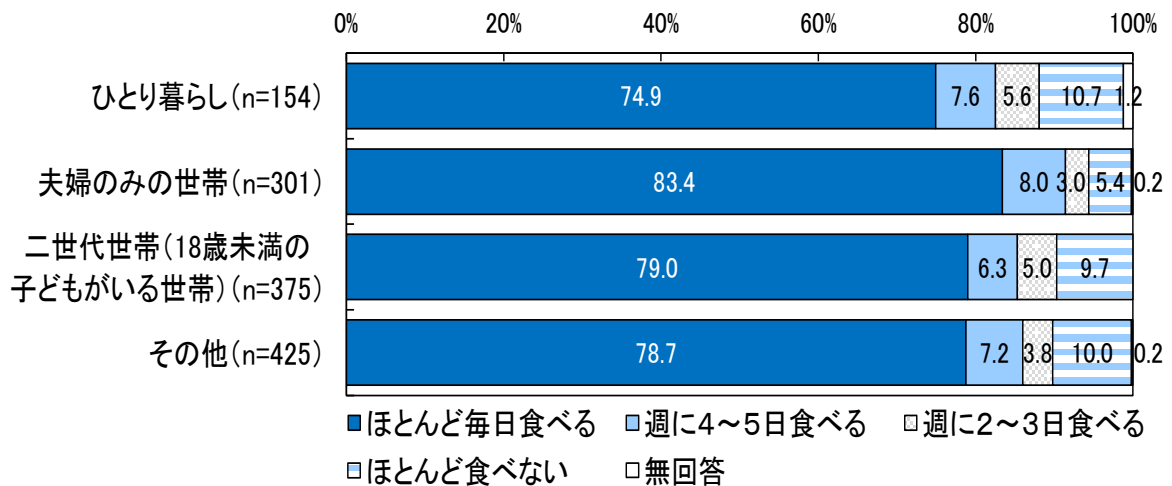
【朝食の摂取状況（性/性・年齢別）】



【朝食の摂取状況（職業別）】



【朝食の摂取状況（世帯構成別）】



(2) 朝食の内容

朝食を食べている者のうち、内容を单品ごとで見ると、「パン」をあげた者が 58.5%と最も高く、次いで「牛乳・乳製品（ヨーグルト・チーズ）」をあげた者が 49.1%、「野菜を使ったおかず」、「ごはん（おにぎりを含む）」をあげた者が約4割となっている。

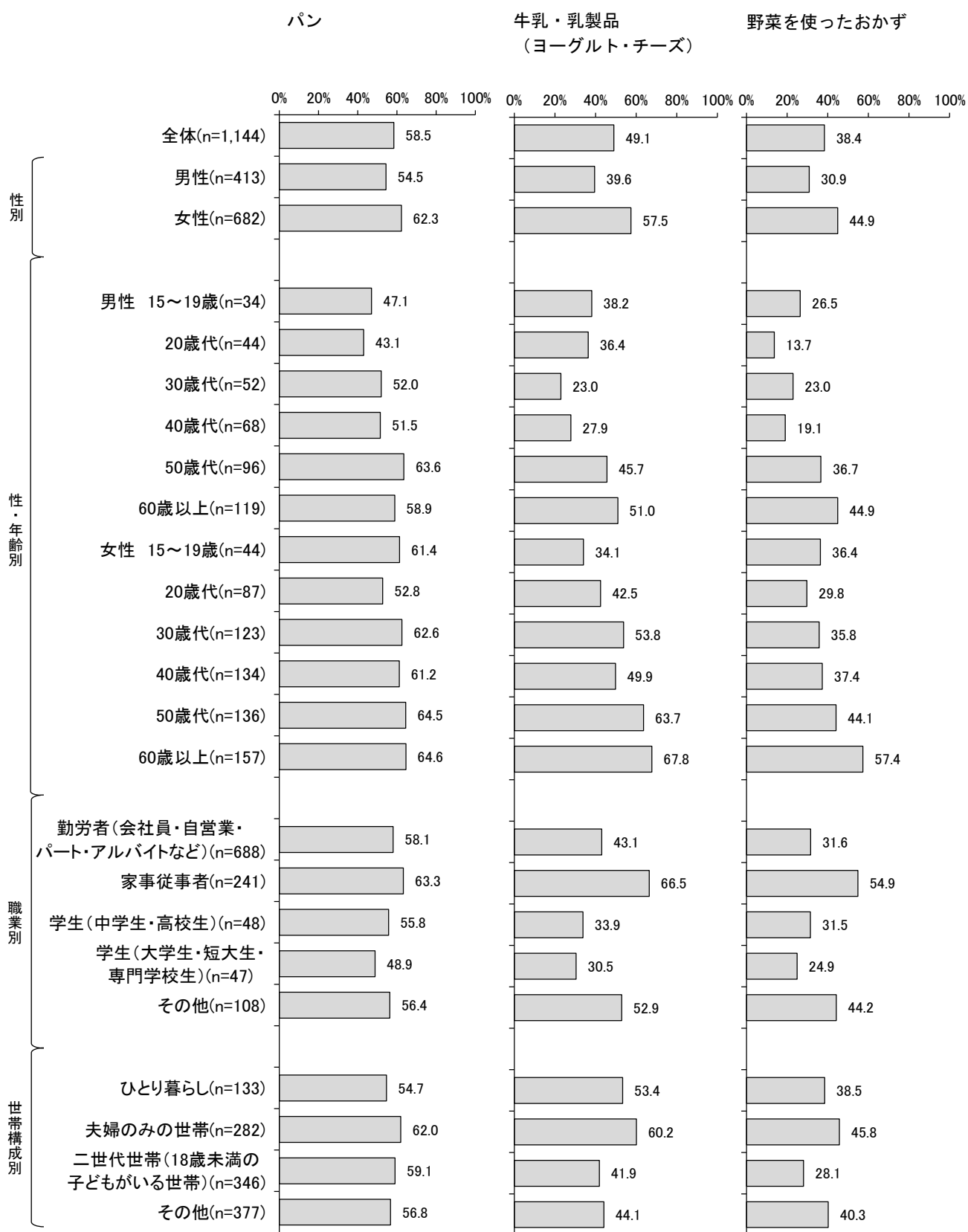
性・年齢別にみると、男性に比べて女性が、「牛乳・乳製品（ヨーグルト・チーズ）」、「野菜を使ったおかず」、「果物」をあげた者が 10 ポイント以上上回っており、「野菜を使ったおかず」は、男性の 20 歳代～40 歳代と女性の 20 歳代で特に低くなっている。

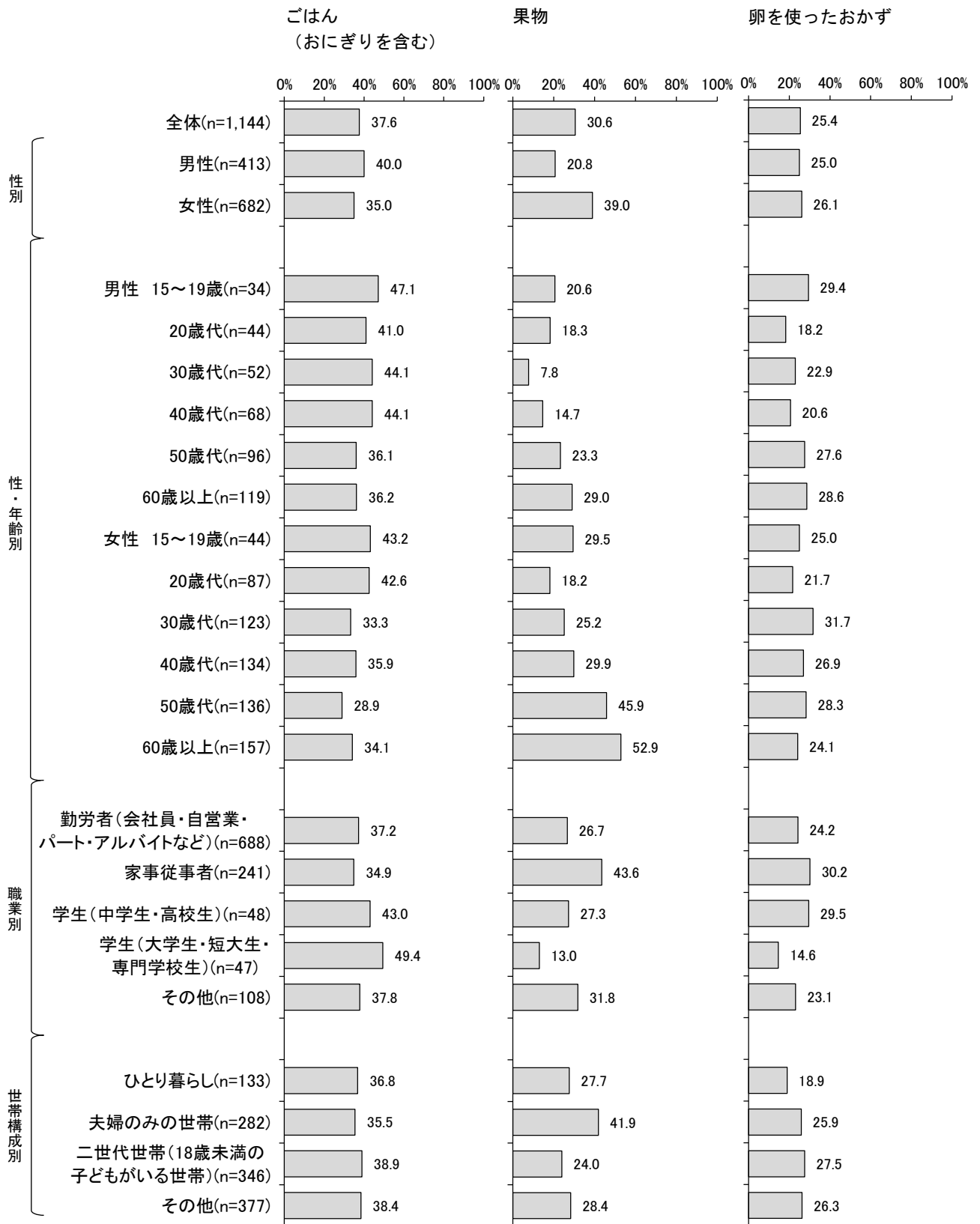
職業別にみると、学生（大学生・短大生・専門学校生）が、「牛乳・乳製品（ヨーグルト・チーズ）」「野菜を使ったおかず」「果物」で他の職業に比べて著しく低くなっている。

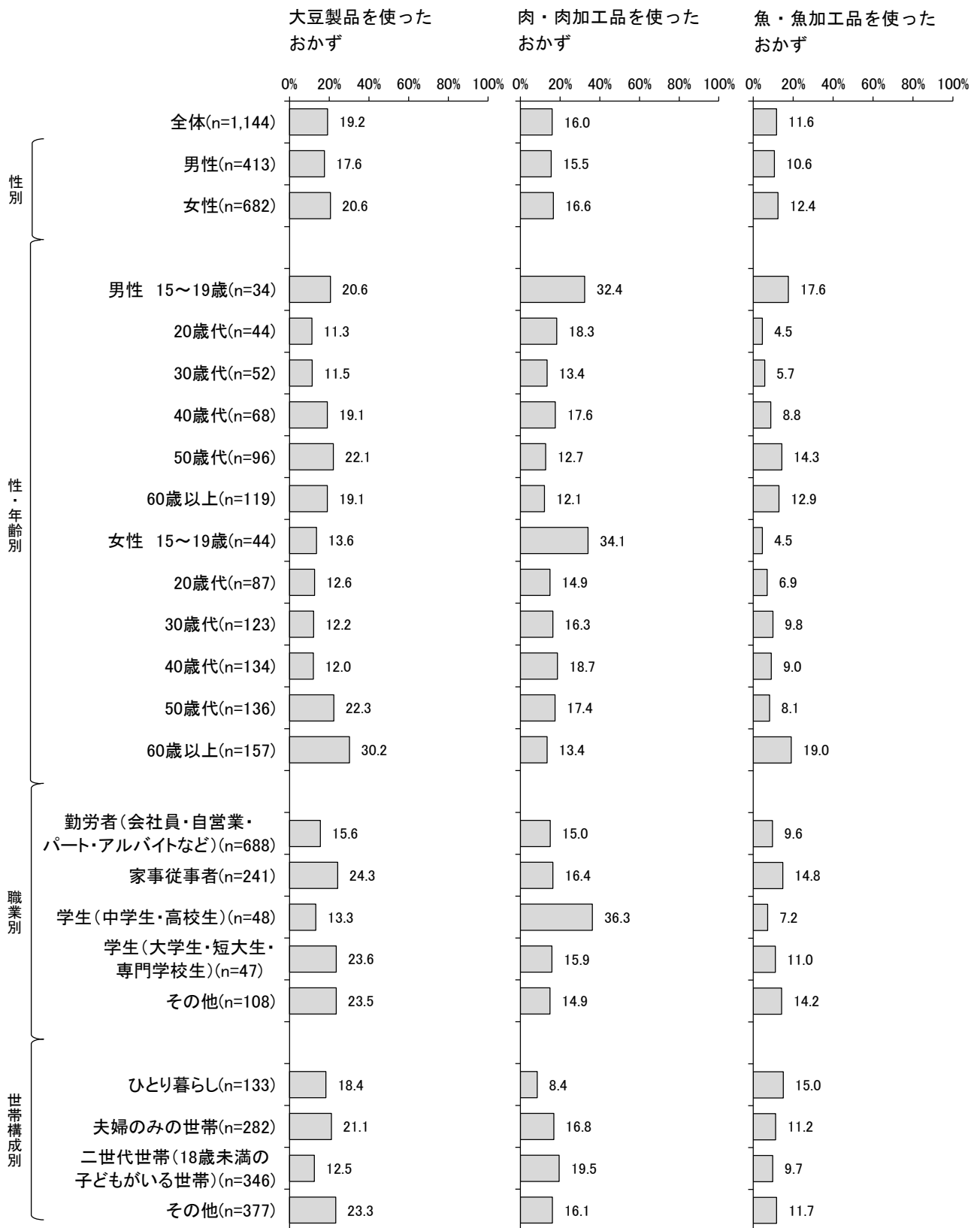
世帯構成別にみると、「牛乳・乳製品（ヨーグルト・チーズ）」「野菜を使ったおかず」「果物」について、「夫婦のみの世帯」が最も高く、「二世帯世帯」で最も低くなっている。

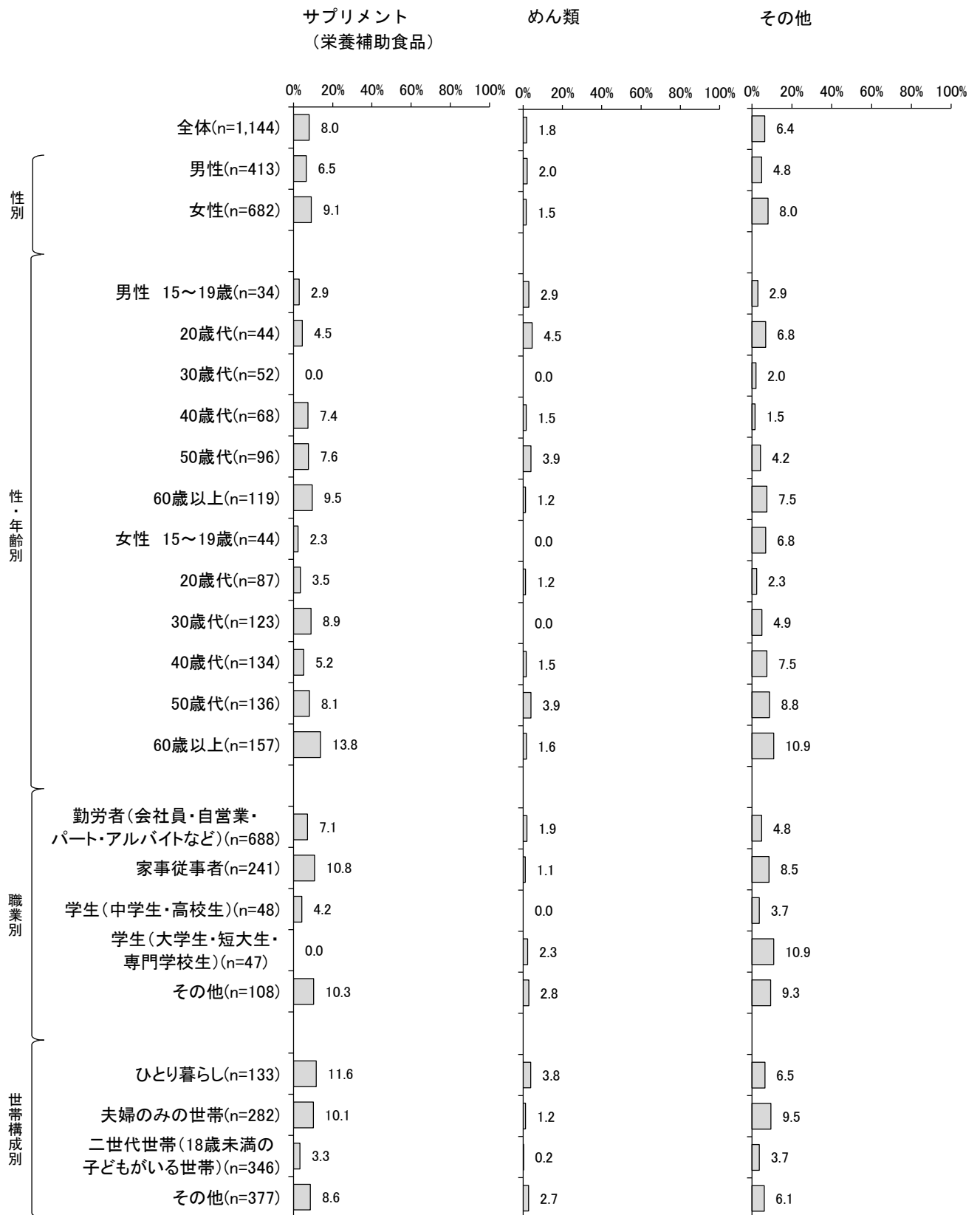


【朝食の内容（性/性・年齢/職業/世帯構成別）】









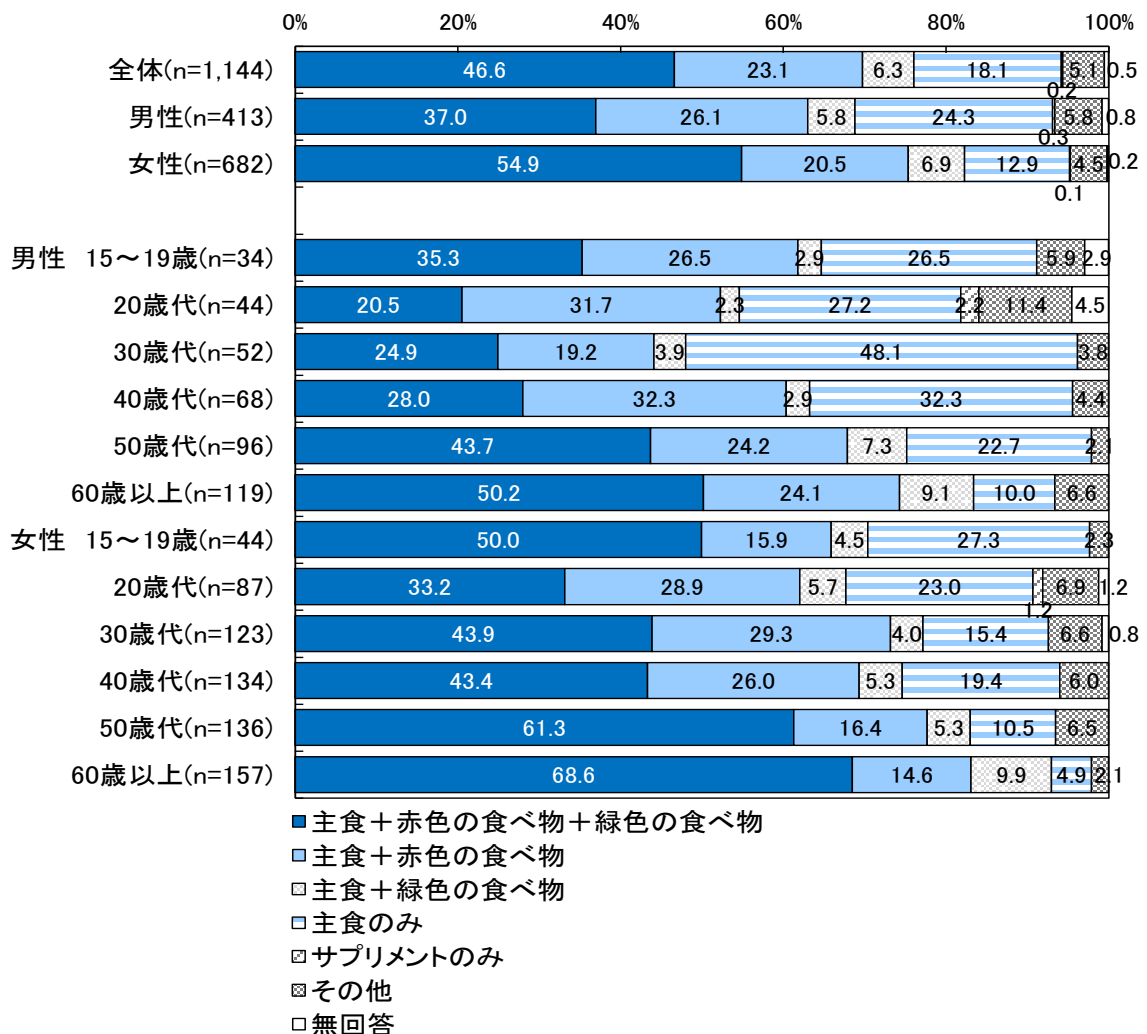
朝食の組み合わせについて、「主食+赤色の食べ物+緑色の食べ物」をそろえて食べている者の割合は、全体で46.6%となっている。

性・年齢別にみると、「主食+赤色の食べ物+緑色の食べ物」をそろえて食べている者の割合は、男性(37.0%)が女性(54.9%)に比べて17.9ポイント低く、20歳代~40歳代男性において2割台と低くなっている。また、「主食のみ」を食べている者の割合は、男性30歳代で48.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、「主食+赤色の食べ物+緑色の食べ物」をそろえて食べる者の割合は、家事従事者(66.2%)で高く、学生(大学生・短大生・専門学校生)(30.3%)で低くなっている。

世帯構成別にみると、「主食+赤色の食べ物+緑色の食べ物」をそろえて食べる者の割合は、夫婦のみの世帯(56.8%)で最も高く、二世帯世帯(36.9%)で最も低くなっている。

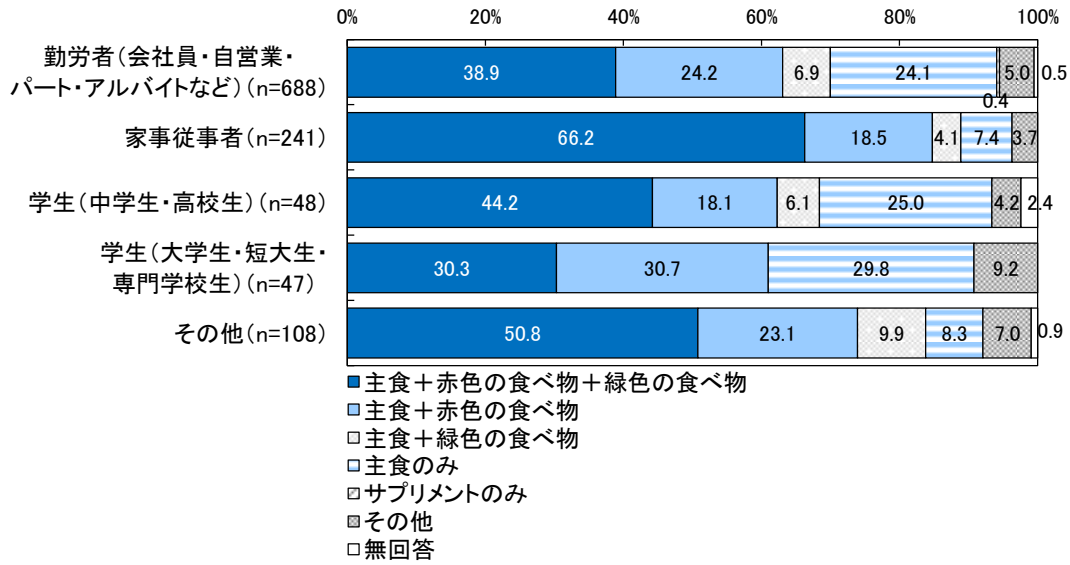
【朝食の内容（組み合わせ）（性/性・年齢別）】



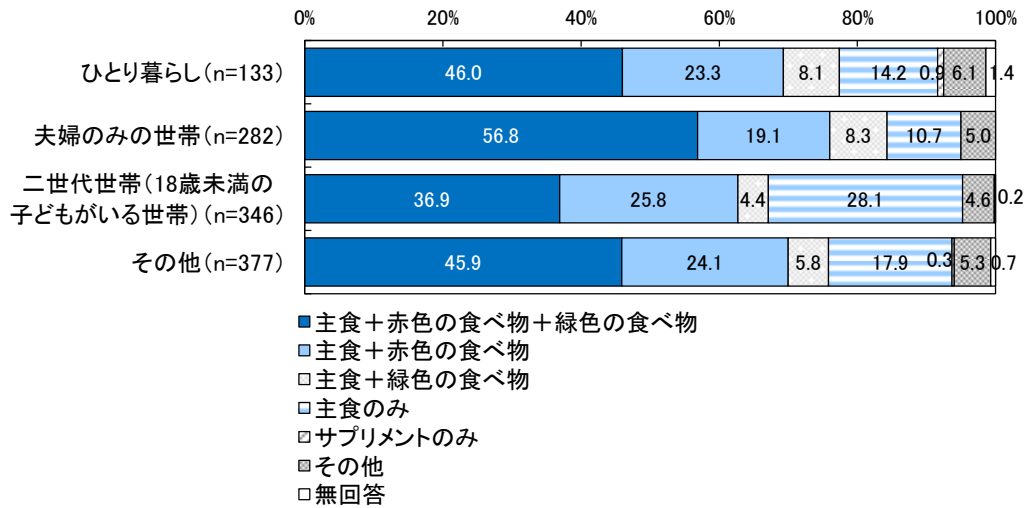
※分類方法

分類	朝食の内容
主食	・ ごはん（おにぎりを含む）・パン
赤色の食べ物	・ 肉・魚・卵・大豆製品を使ったおかず・牛乳・乳製品（ヨーグルト、チーズ）
緑色の食べ物	・ 野菜を使ったおかず・果物

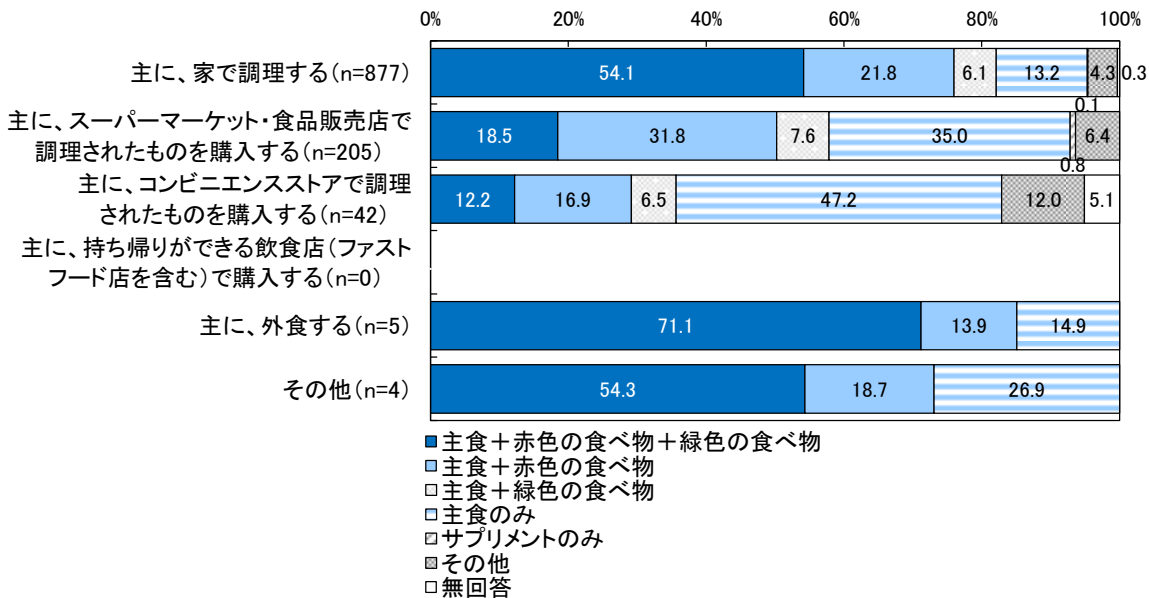
【朝食の内容（組み合わせ）（職業別）】



【朝食の内容（組み合わせ）（世帯構成別）】



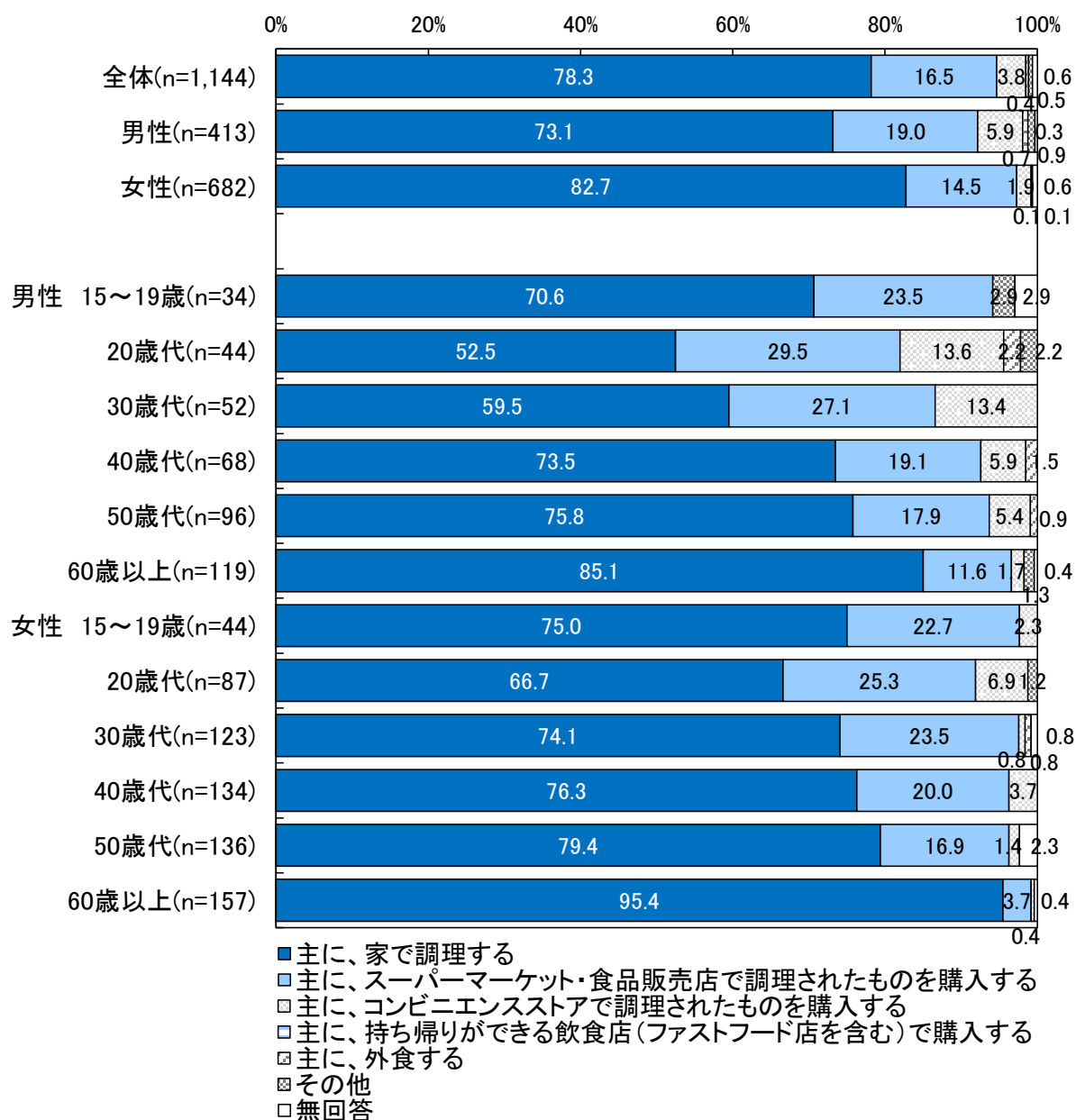
【朝食の内容（組み合わせ）（朝食の準備方法別）】



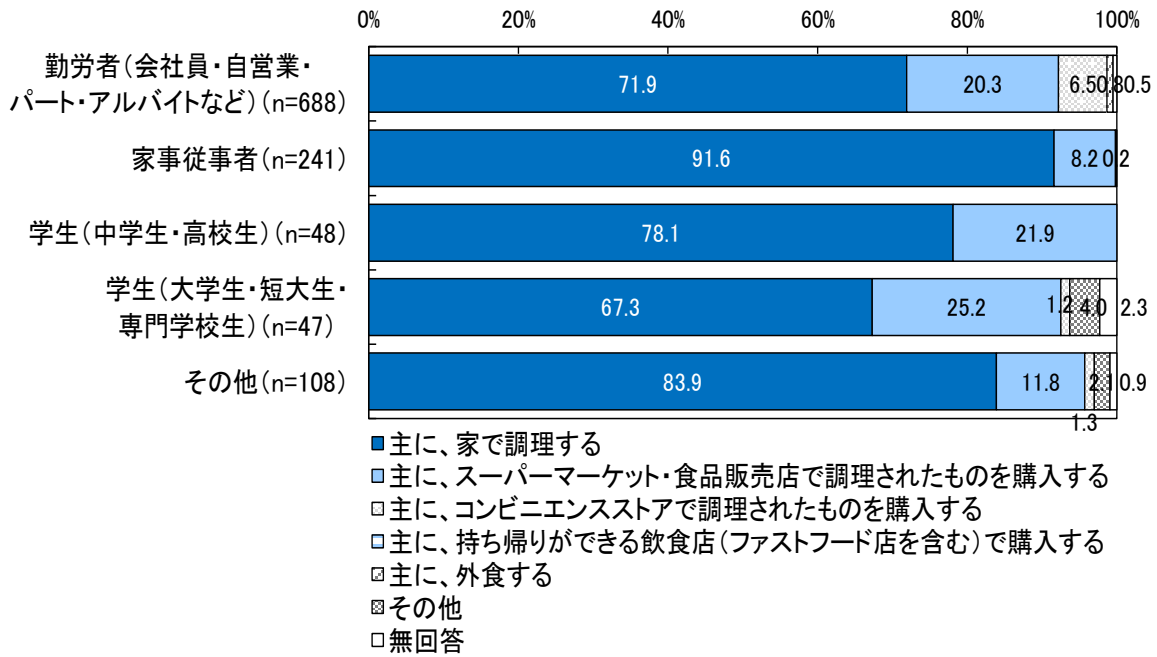
### (3) 朝食の準備方法

朝食の準備方法について、「主に家で調理する」者の割合は、全体では78.3%となっている。  
 性・年齢別にみると、「主に家で調理する」者の割合は、男性(73.1%)が女性(82.7%)に比べて9.6ポイント低く、20歳代~30歳代男性で低くなっている。  
 職業別にみると、「主に家で調理する」者の割合は、学生(大学生・短大生・専門学校生)が67.3%と低くなっており、世帯構成別にみると、ひとり暮らしが67.9%と他の世帯よりも低くなっている。

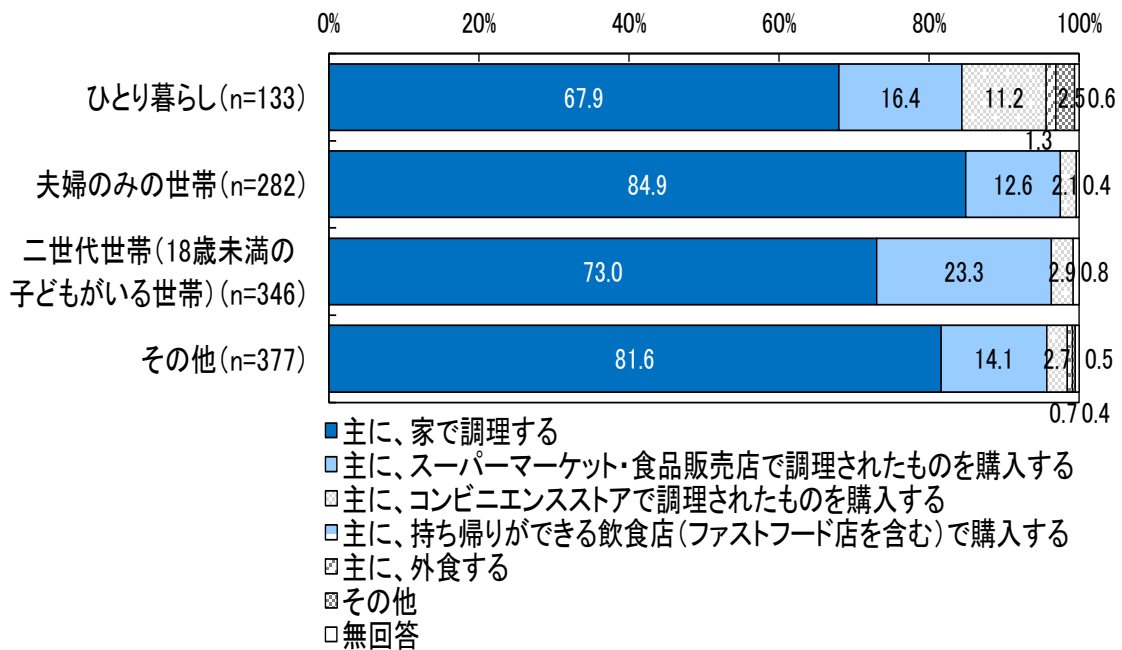
【朝食の準備方法（性/性・年齢別）】



【朝食の準備方法（職業別）】



【朝食の準備方法（世帯構成別）】





## 2 食品表示・食品衛生について

### (1) 食品表示の確認

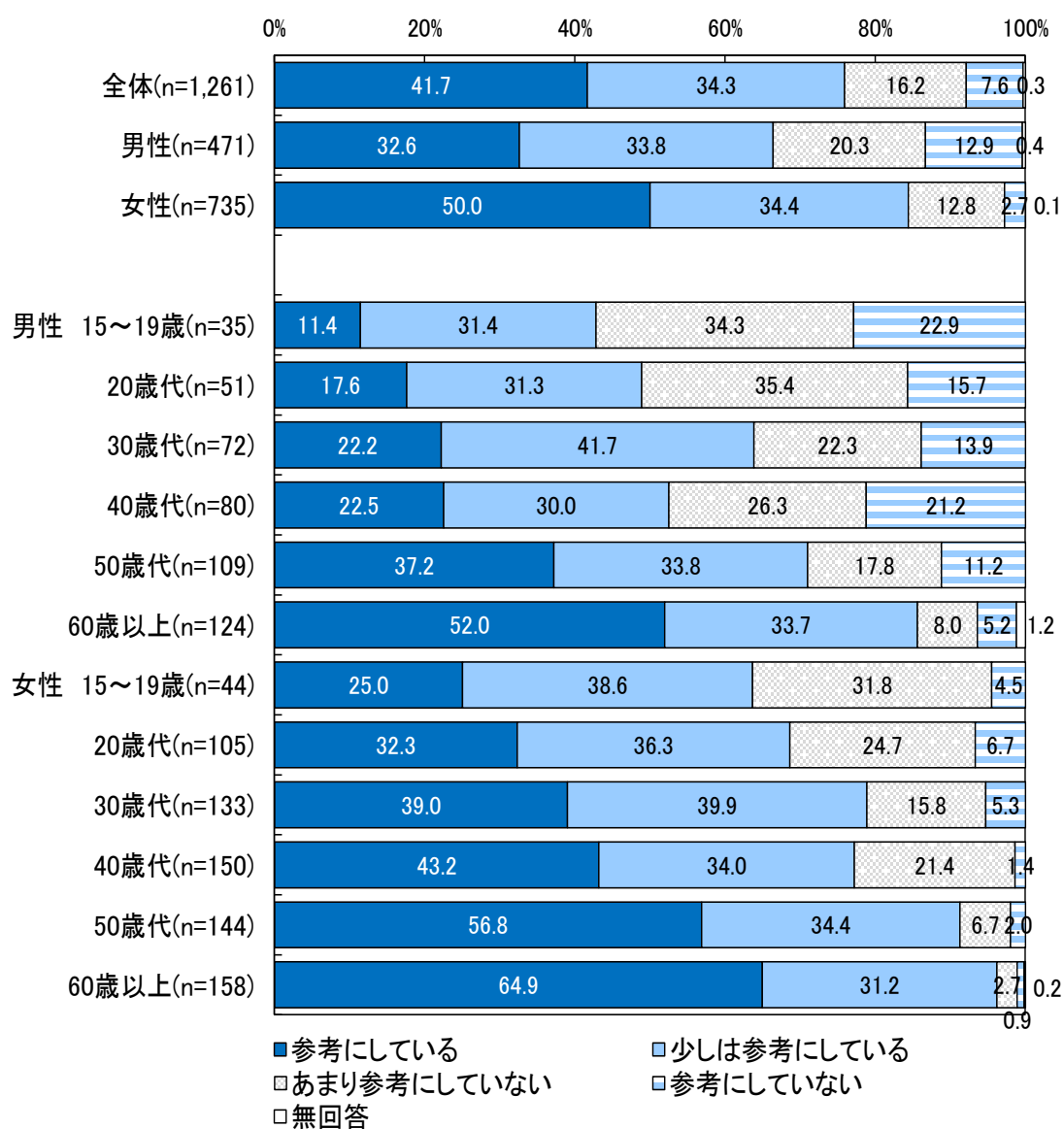
食品表示の確認について、購入時に食品表示を「参考になっている」（「参考になっている」＋「少しは参考になっている」）者の割合は、全体では76.0%となっている。

性・年齢別にみると、「参考になっている」者の割合は、女性(84.4%)が男性(66.4%)に比べて18.0ポイント高く、男性60歳以上、女性50歳以上で8割を超えて高くなっている。

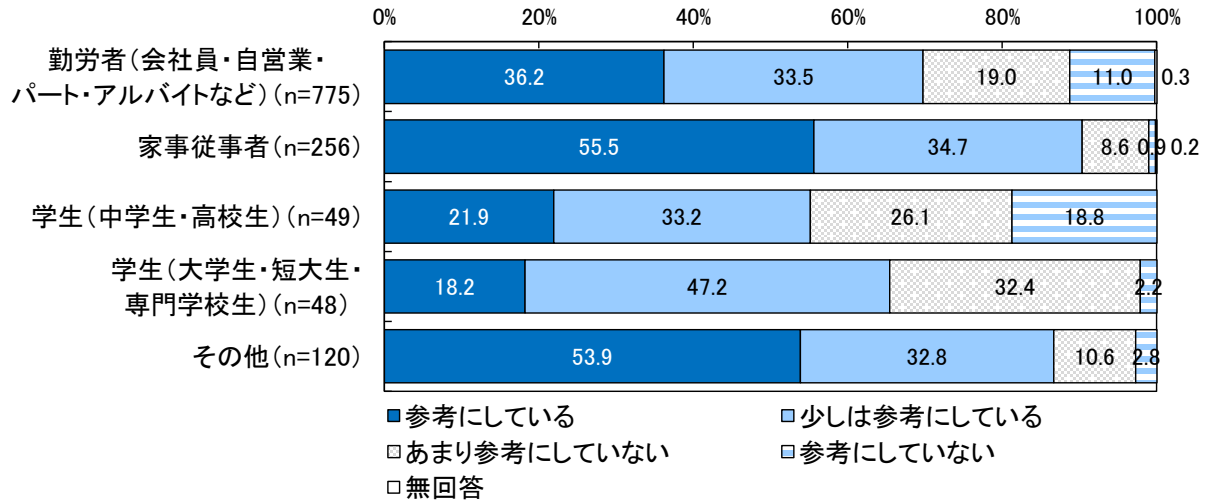
職業別にみると、家事従事者が90.2%と最も高く、「中学生・高校生」が55.1%、「大学生・短大生・専門学校生」が65.4%となっている。

世帯構成別にみると、夫婦のみの世帯が83.6%と最も高く、二世帯世帯が67.5%と低くなっている。

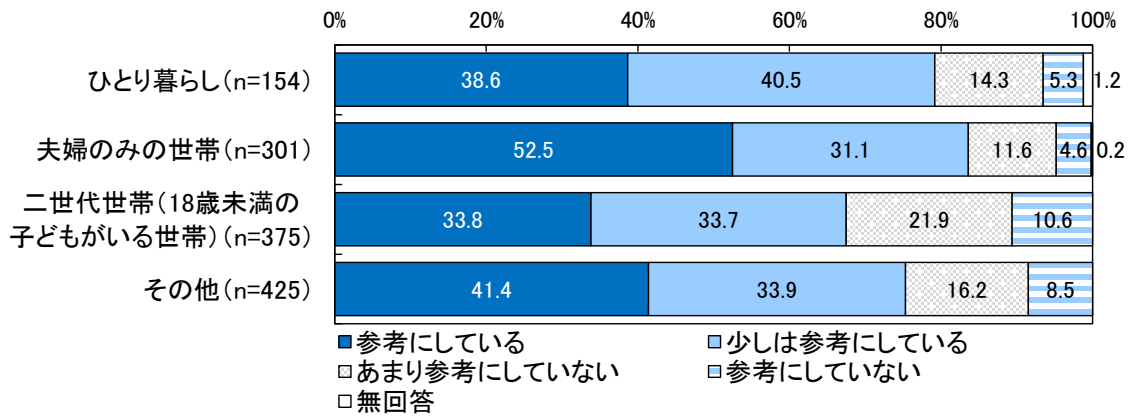
【食品表示の確認（性/性・年齢別）】



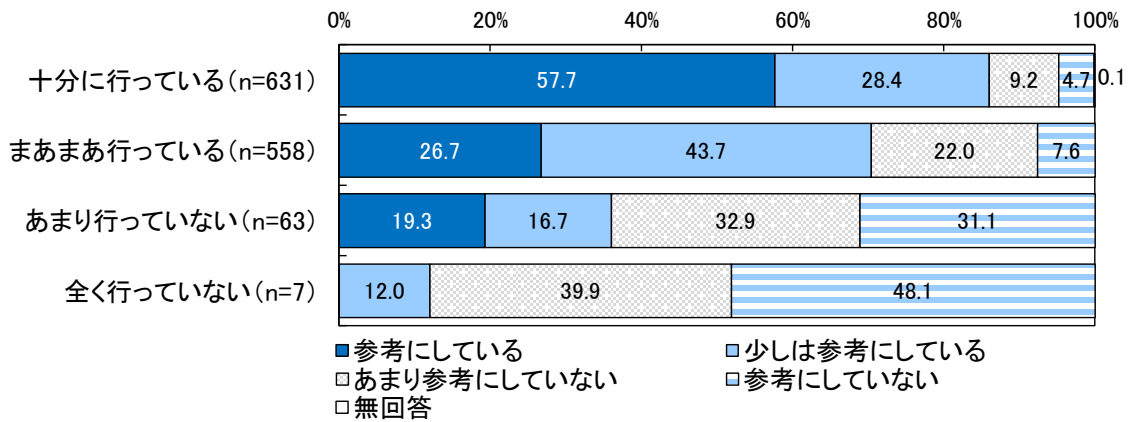
【食品表示の確認（職業別）】



【食品表示の確認（世帯構成別）】



【食品表示の確認（衛生に関する実践度別）】



(2) 衛生に関する実践度 【目標数値：90%以上】

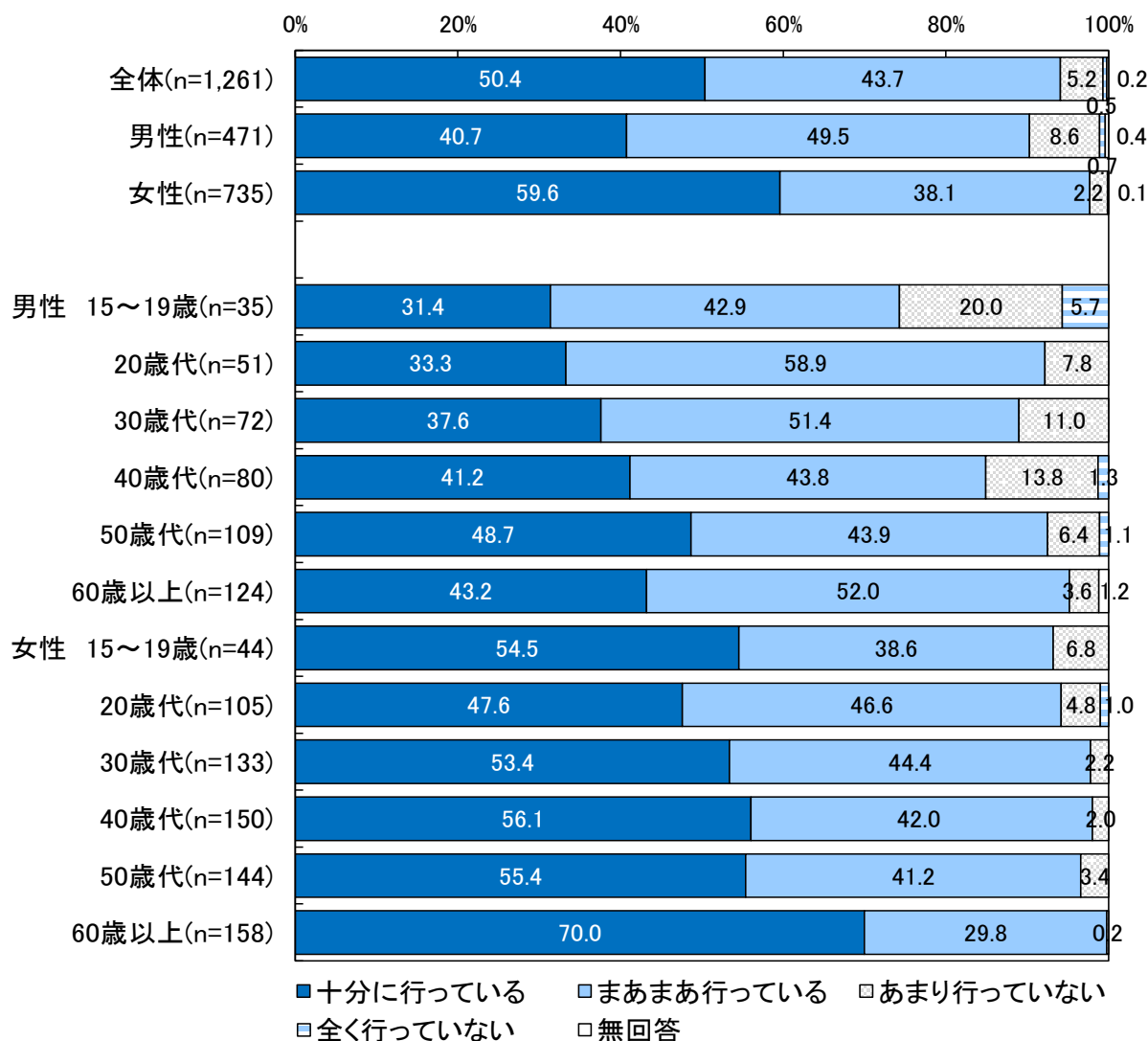
衛生に関する実践度について、食中毒予防のために、「手洗い・食品の加熱・食品の冷蔵を行っている」（「十分に行っている」＋「まあまあ行っている」）者の割合は、全体では94.1%と高くなっている。

性・年齢別にみると、男性(90.2%)が女性(97.7%)に比べて7.5ポイント低くはあるが、高い割合を示しており、15～19歳男性(74.3%)のみ低くなっている。

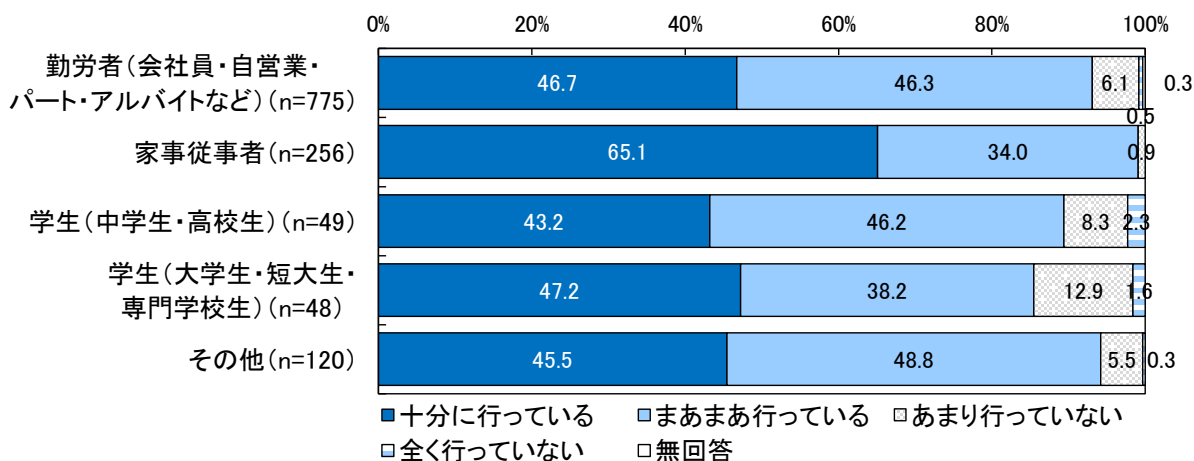
職業別にみると、家事従事者(99.1%)で最も高くなっている。

世帯構成別にみると、差はなく全て9割以上と高くなっている。

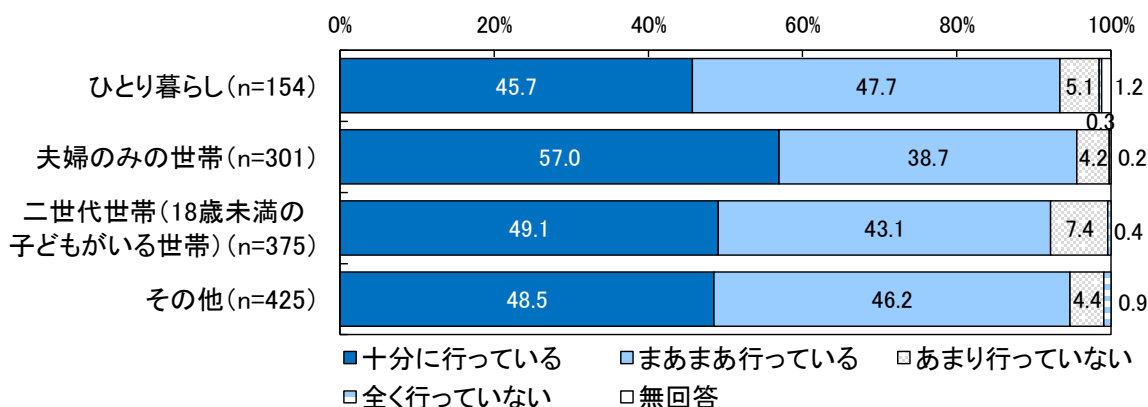
【衛生に関する実践度（性/性・年齢別）】



### 【衛生に関する実践度（職業別）】



### 【衛生に関する実践度（世帯構成別）】



### (3) 食の「安全・安心」に関して今後充実してほしい情報提供の方法

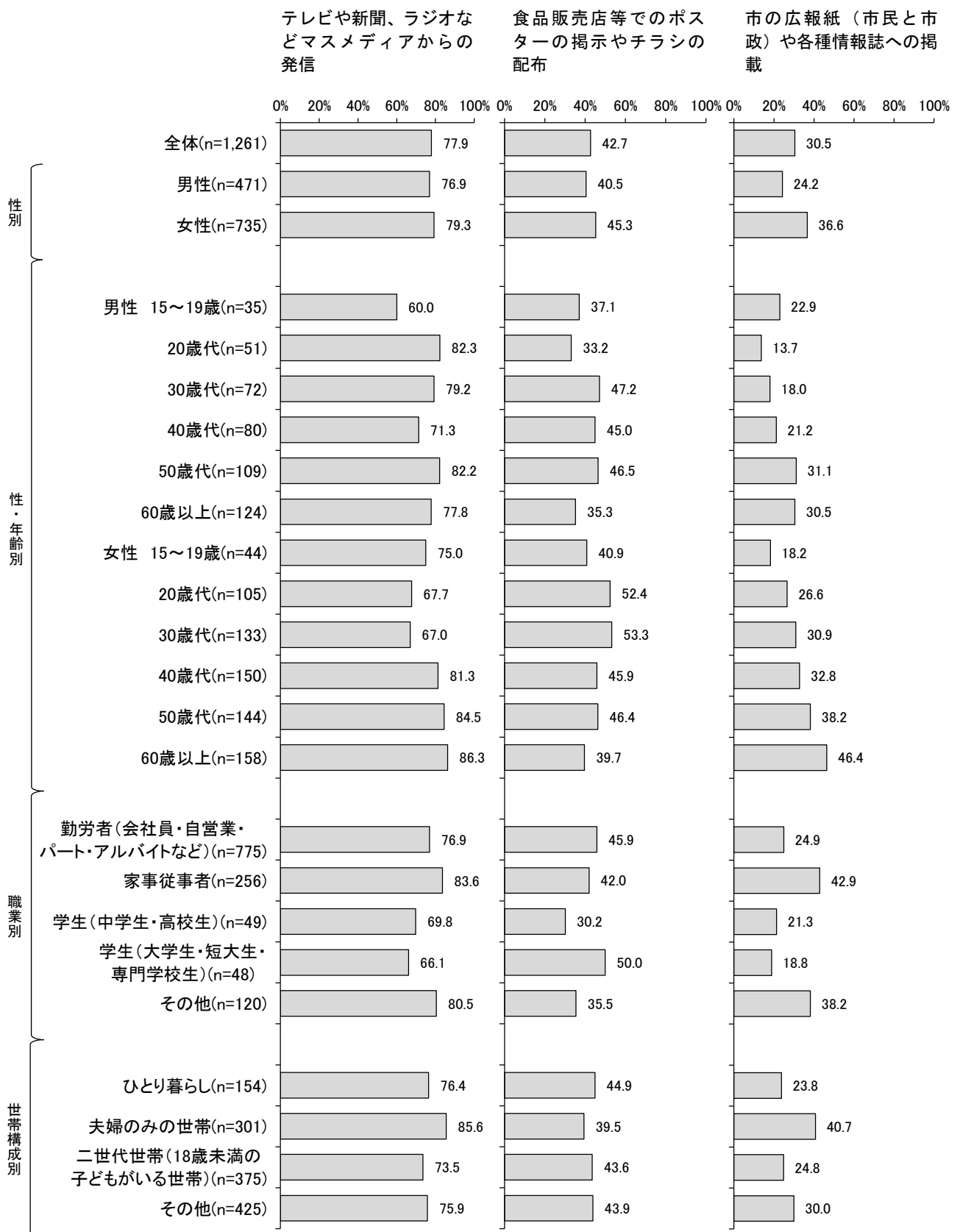
食の安全性について正しい知識を持つために、今後充実してほしい情報提供の方法としては、「テレビや新聞、ラジオなどマスメディアからの発信」が77.9%と最も高く、次いで「食品販売店等でのポスターの掲示やチラシの配布」が42.7%、「市の広報紙（市民と市政）や各種情報誌への掲載」が30.5%となっている。

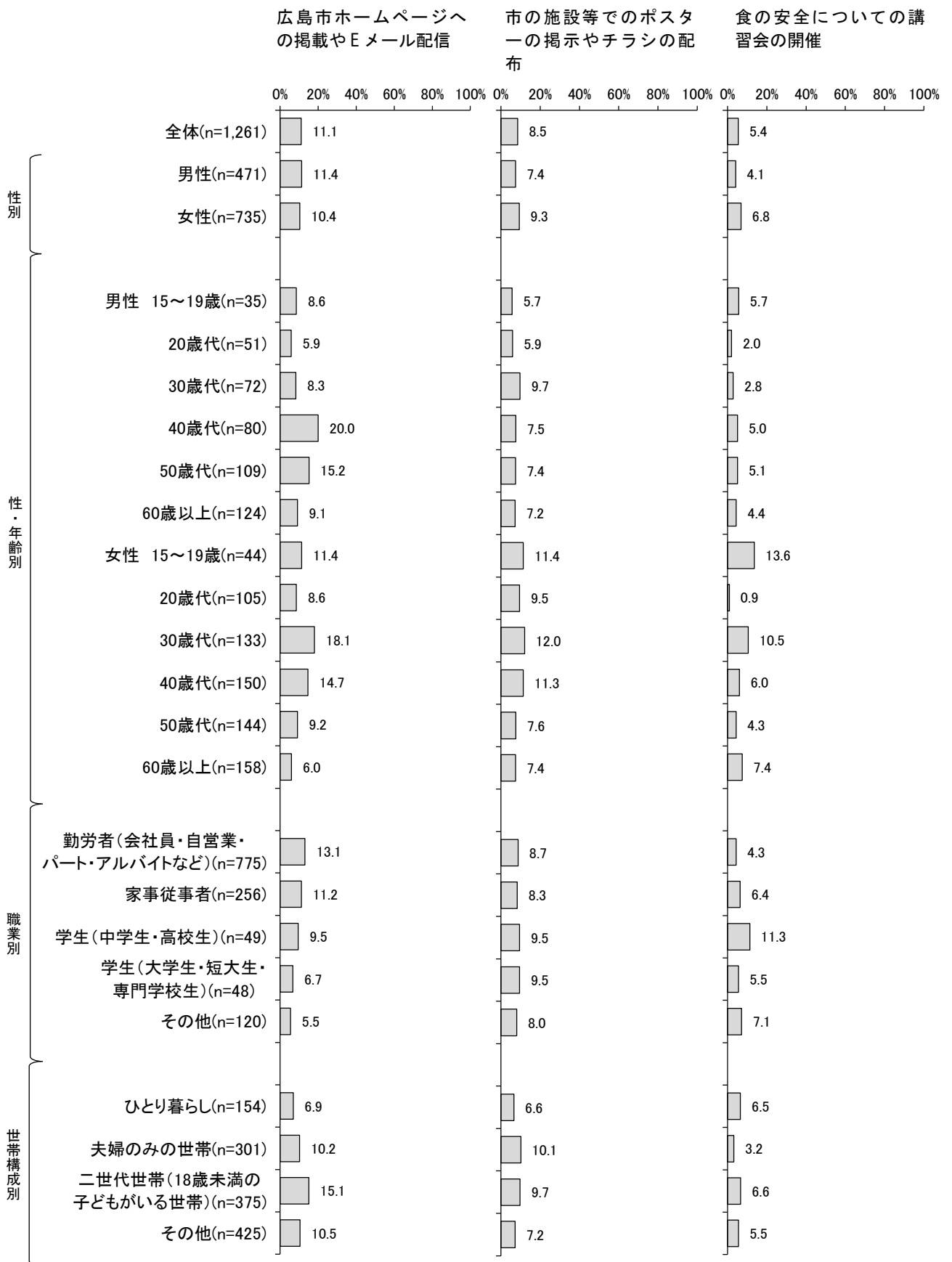
性・年齢別にみると、「市の広報紙（市民と市政）や各種情報誌への掲載」は女性(36.6%)が男性(24.2%)に比べて12.4ポイント高く、20歳代～30歳代男性、15～19歳女性で低くなっている。

職業別にみると、「市の広報紙（市民と市政）や各種情報誌への掲載」について、「大学生・短大生・専門学校生」が18.8%と低くなっている。

世帯構成別にみると、「市の広報紙（市民と市政）や各種情報誌への掲載」について、夫婦のみの世帯が40.7%である一方、ひとり暮らし(23.8%)、二世帯世帯(24.8%)で低く、乖離している。

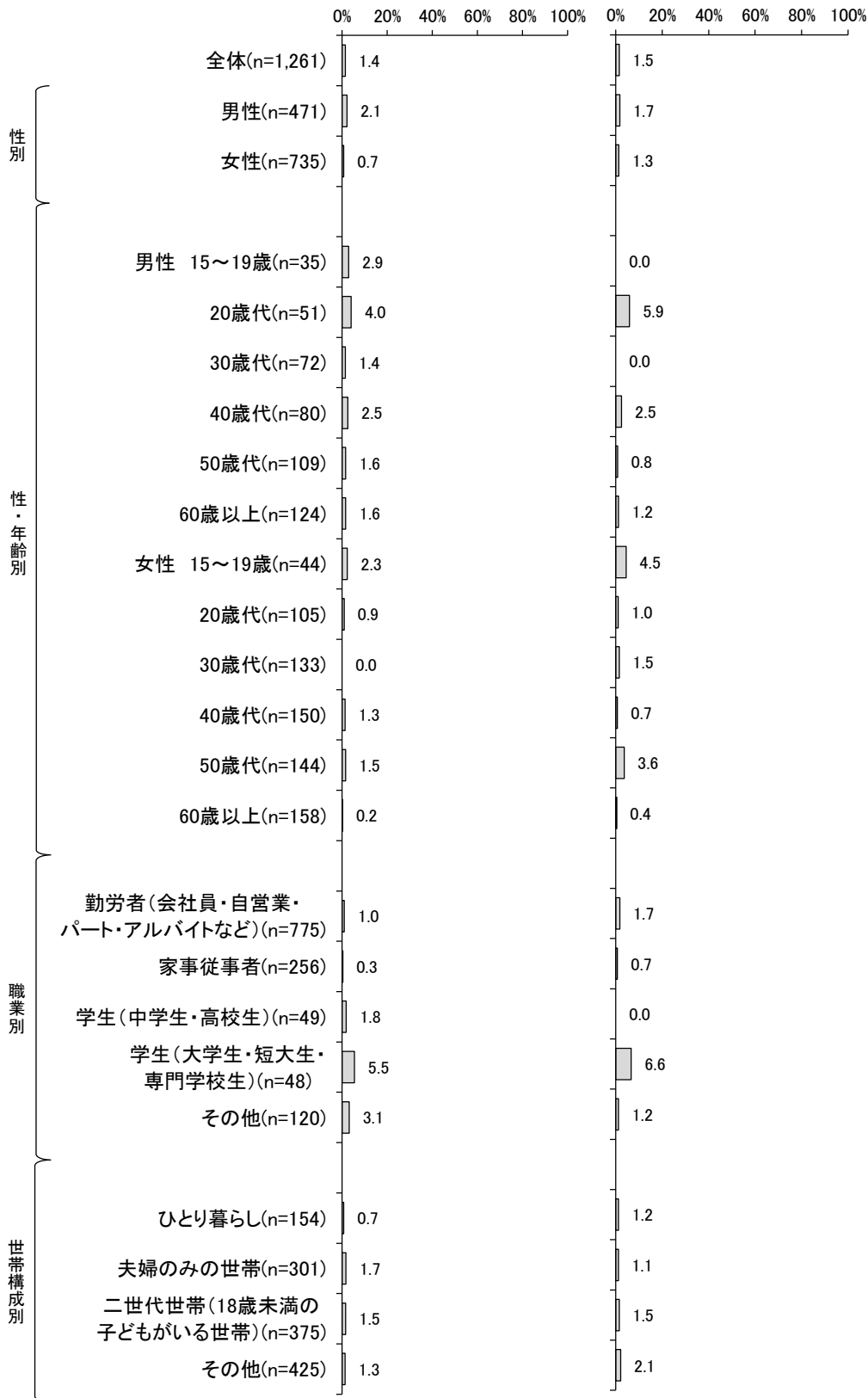
【今後充実してほしい情報提供の方法（性/性・年齢/職業/世帯構成別）】





食の安全についての意見交換会の開催

その他



### 3 わ食について

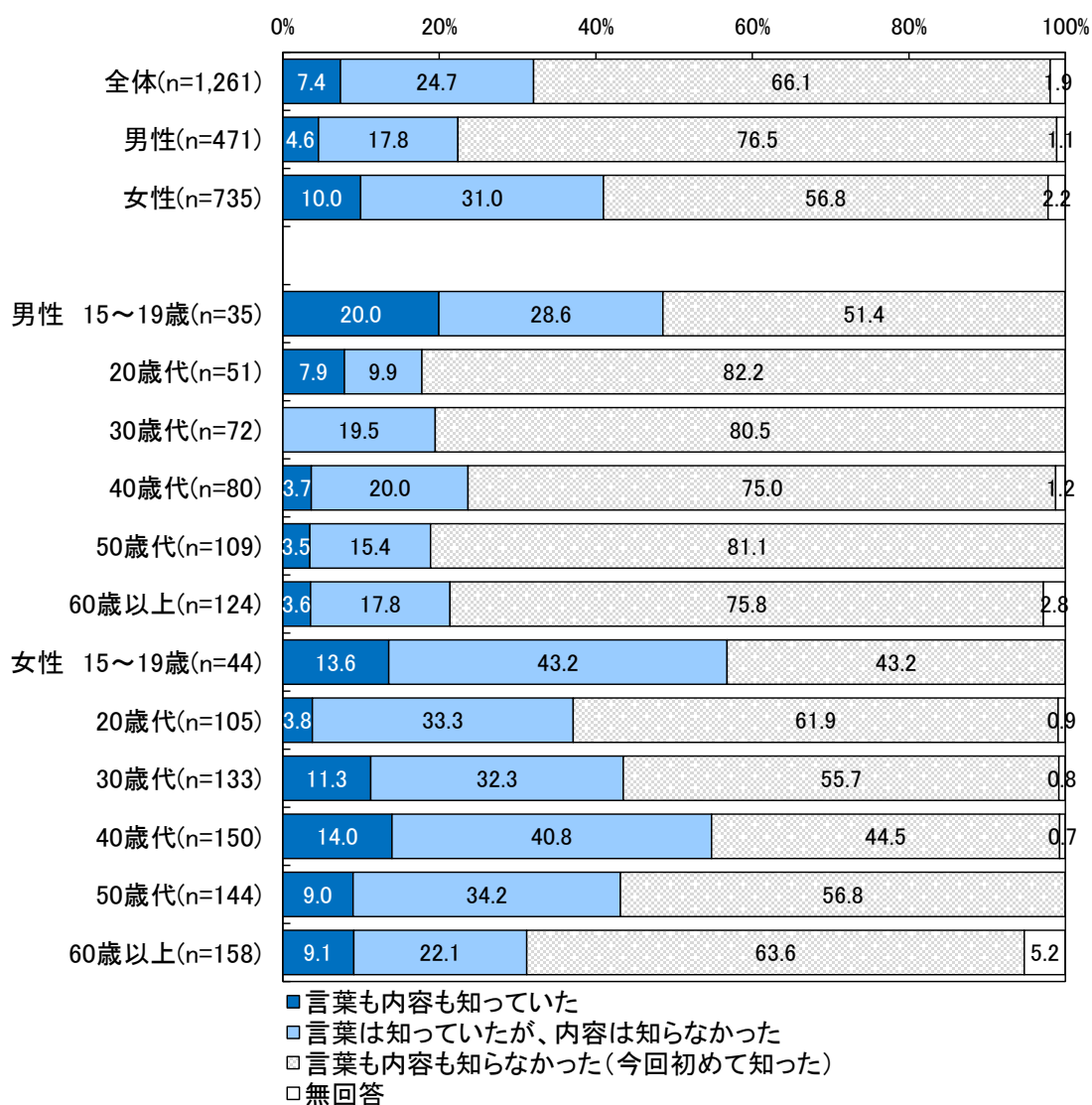
#### (1) 「わ食の日」の認知度

「わ食の日」を「知っていた」（「言葉も内容も知っていた」＋「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」）者の割合は、全体では32.1%となっている。

性・年齢別にみると、「知っていた」者の割合は女性(41.0%)に比べて男性(22.4%)が18.6ポイント低く、15～19歳の男性(48.6%)を除く全年代で低く、女性は15～19歳(56.8%)と40歳代(54.8%)で高くなっている。

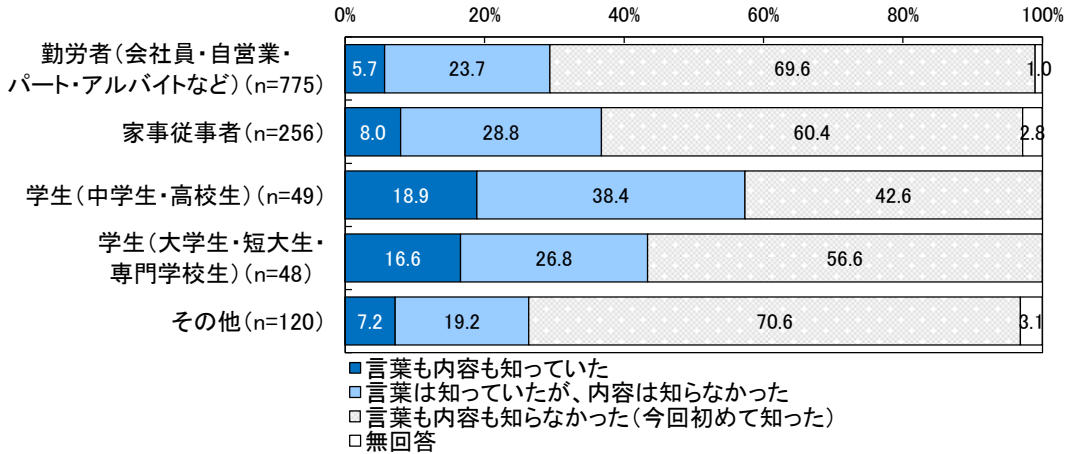
職業別にみると、「知っていた」者の割合は、「中学生・高校生」(57.3%)で最も高くなっており、世帯構成別にみると、二世帯世帯(42.8%)で高くなっている。

【「わ食の日」の認知度（性/性・年齢別）】

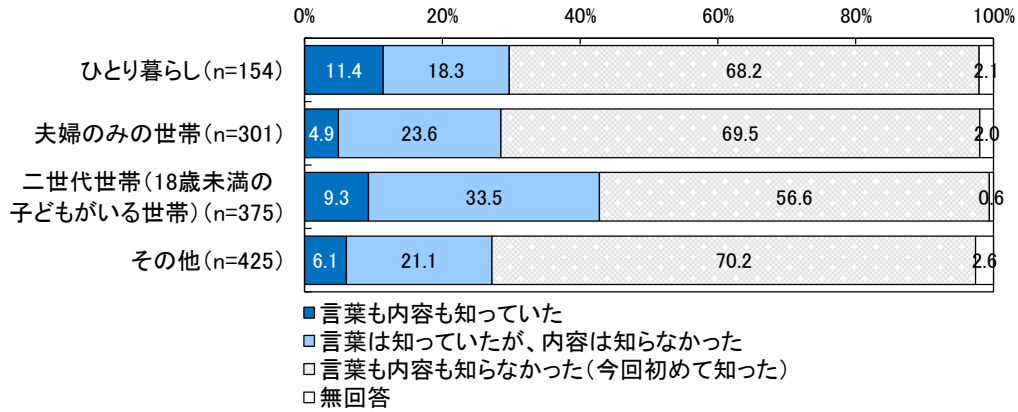




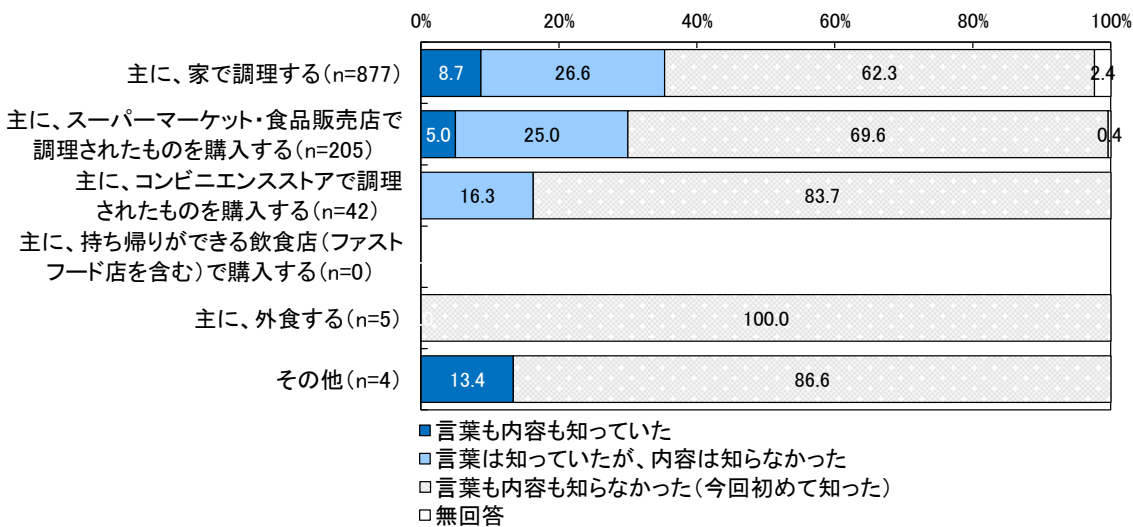
### 【「わ食の日」の認知度（職業別）】



### 【「わ食の日」の認知度（世帯構成別）】



### 【「わ食の日」の認知度（朝食の準備方法別）】



(2) 「わ食」の実践度 【目標数値：80%以上】

【和食（栄養バランスのとれた日本型食生活の実践）】

和食の実践度について、「実践している」（「十分に実践している」＋「まあまあ実践している」）者の割合は、全体では69.6%となっている。

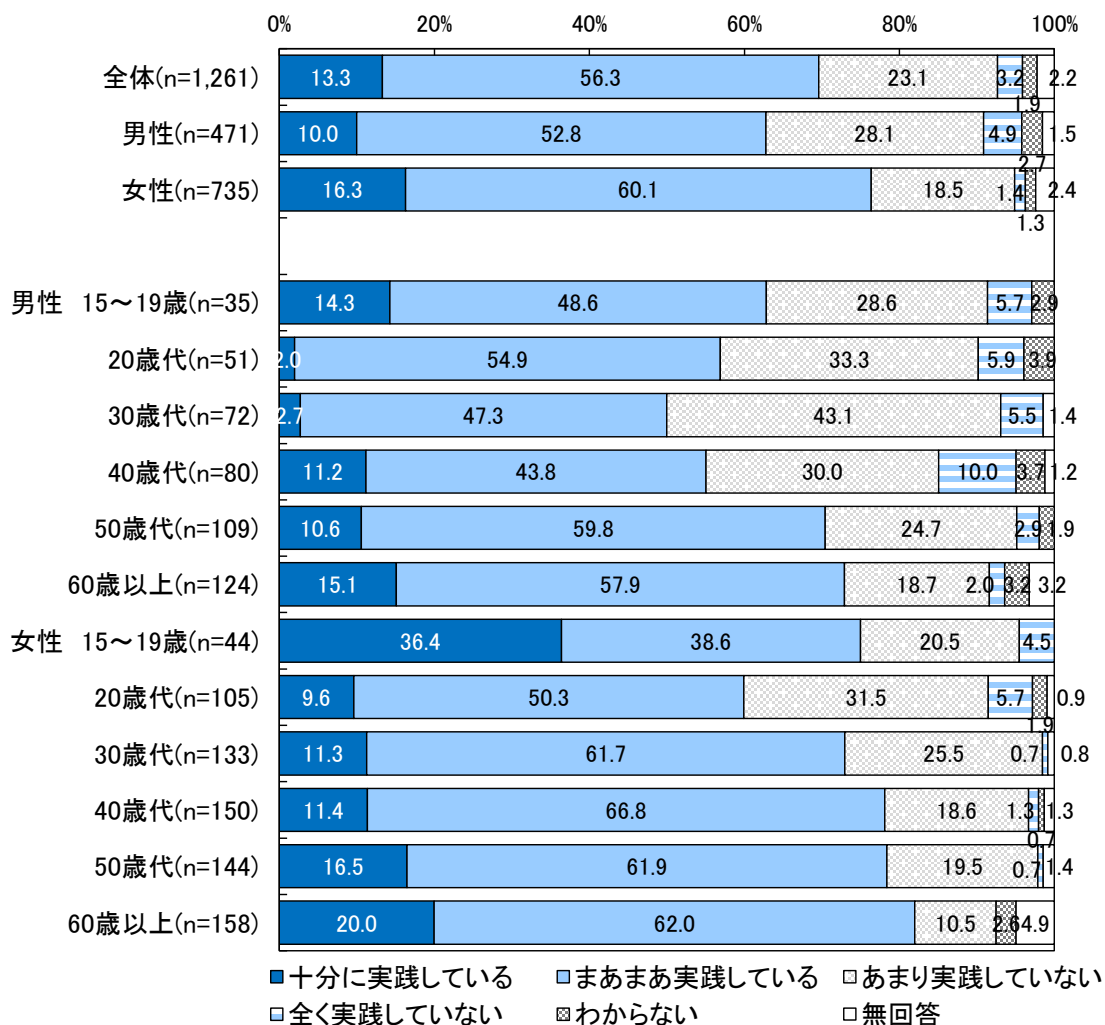
性・年齢別にみると、「実践している」者の割合は、女性(76.4%)に比べて男性(62.8%)が13.6ポイント低く、30歳代男性(50.0%)と20歳代女性(59.9%)で低くなっている。

職業別にみると、「実践している」者の割合は、家事従事者(83.0%)で高くなっている。

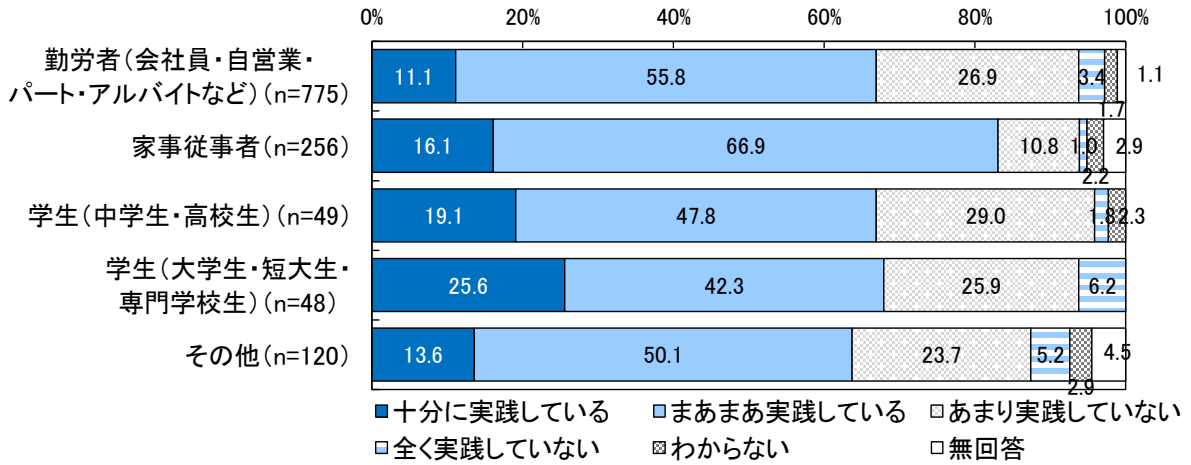
世帯構成別にみると、「実践している」者の割合は、夫婦のみの世帯(79.3%)で高く、ひとり暮らし(54.8%)で低くなっている。

「わ食の日」の認知度別にみると、「実践している」者の割合は、言葉も内容も知っている者(93.3%)で最も高くなっている。

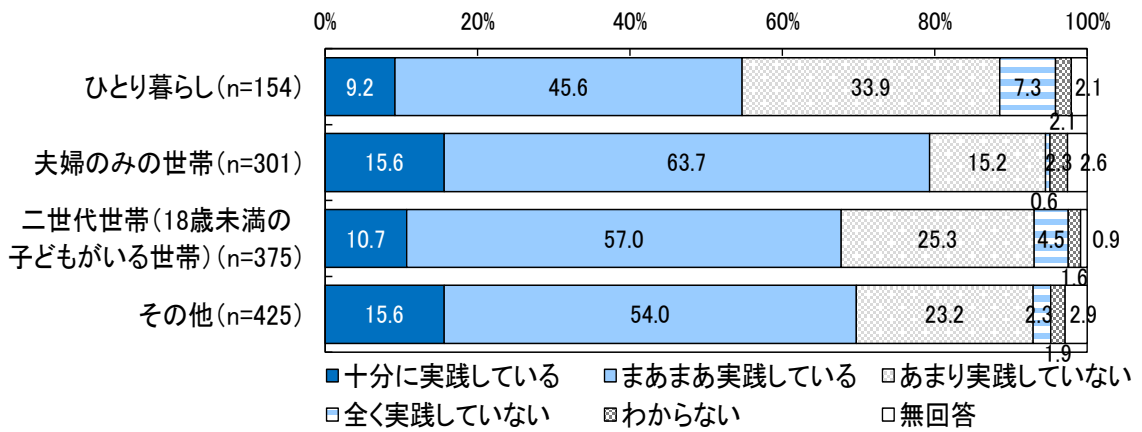
【和食の実践度（性/性・年齢別）】



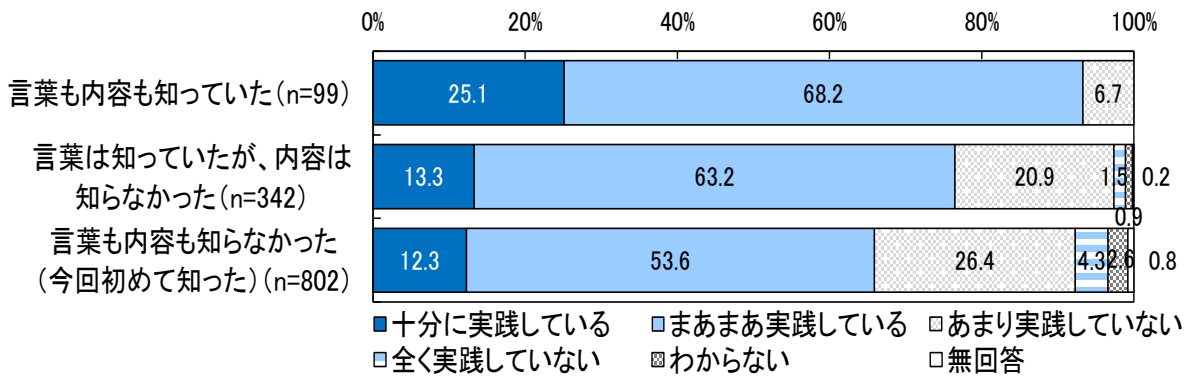
【和食の実践度（職業別）】



【和食の実践度（世帯構成別）】



【和食の実践度（「わ食の日」の認知度別）】



**【輪食（食卓を囲む家族などとの団らん）】**

輪食の実践度について、「実践している」（「十分に実践している」＋「まあまあ実践している」）者の割合は、全体で70.5%となっている。

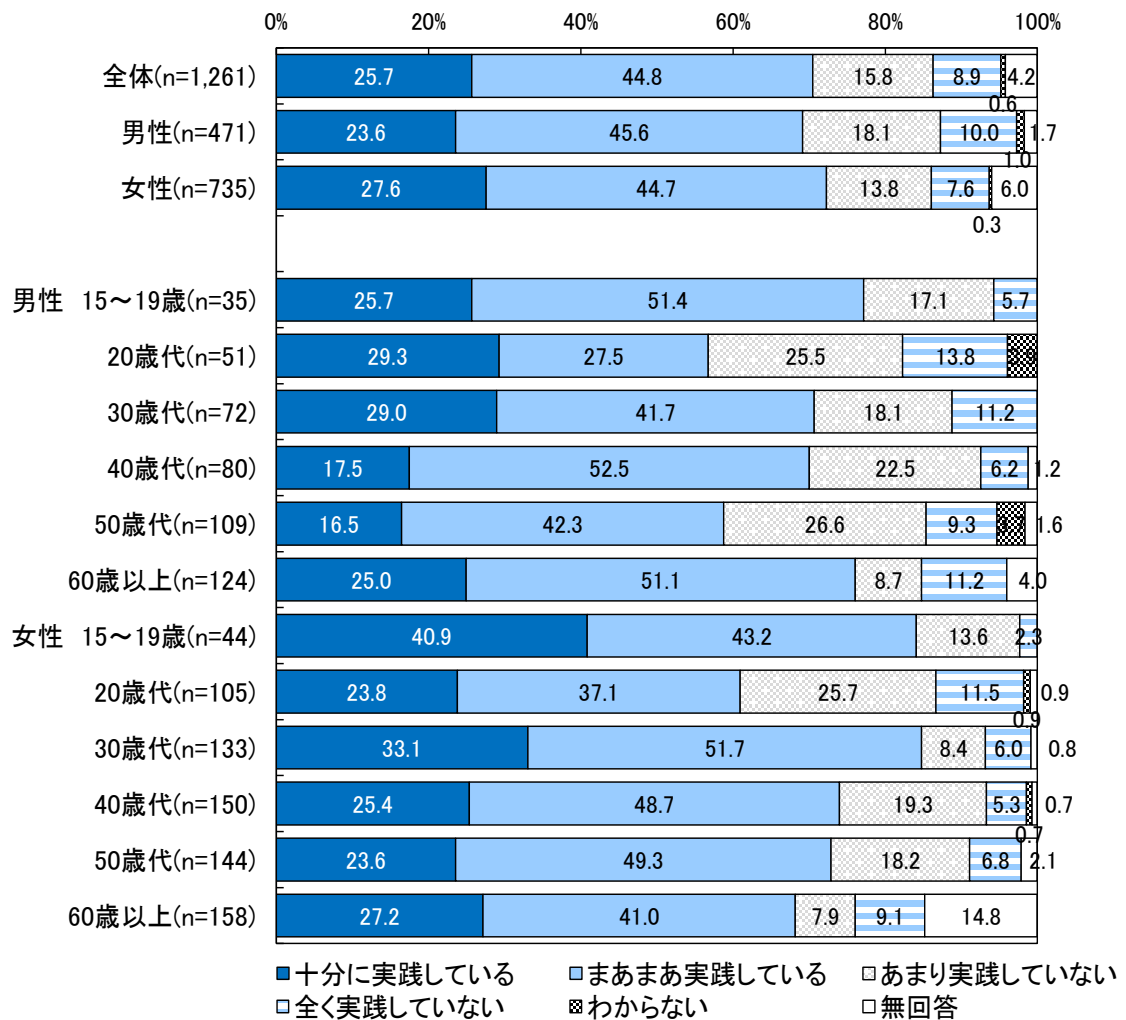
性・年齢別にみると、「実践している」者の割合は、女性（72.3%）に比べて男性（69.2%）が3.1ポイント低く、男女とも20歳代（男性56.8% 女性60.9%）で低くなっている。

職業別にみると、「中学生・高校生」（81.6%）で高くなっている。

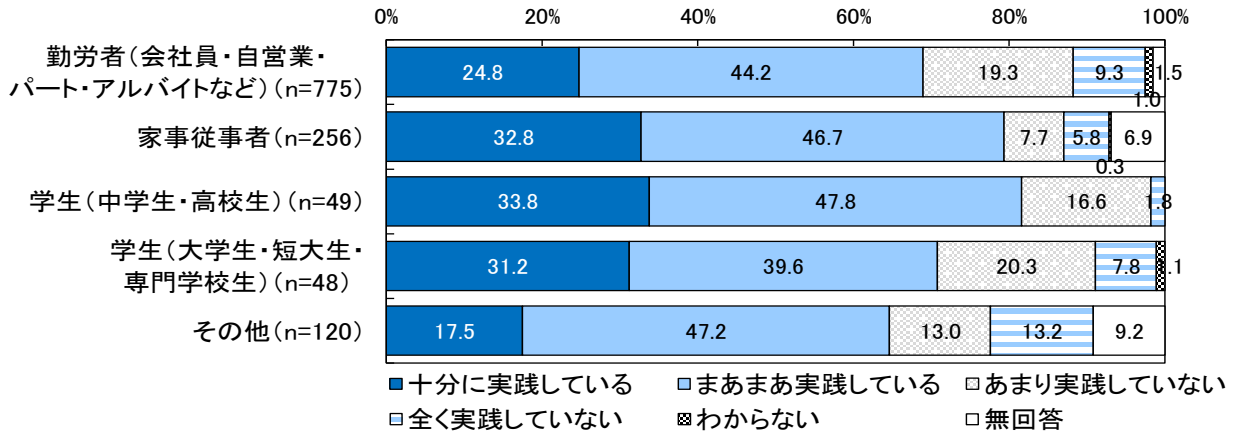
世帯構成別にみると、夫婦のみの世帯（84.7%）で高く、ひとり暮らし（15.5%）で低くなっている。

「わ食の日」の認知度別にみると、「実践している」者の割合は、「言葉を知っていた」者（76.6%）で高くなっている。

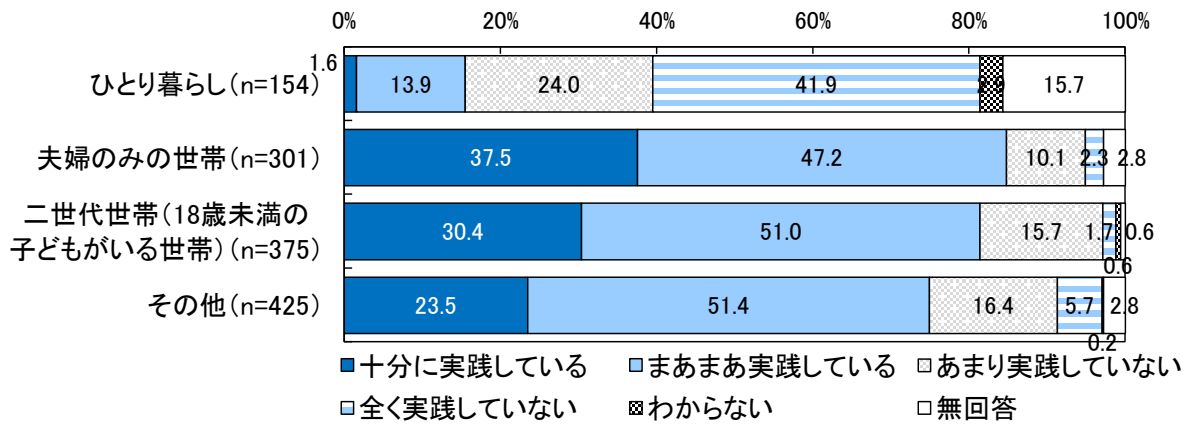
**【輪食の実践度（性/性・年齢別）】**



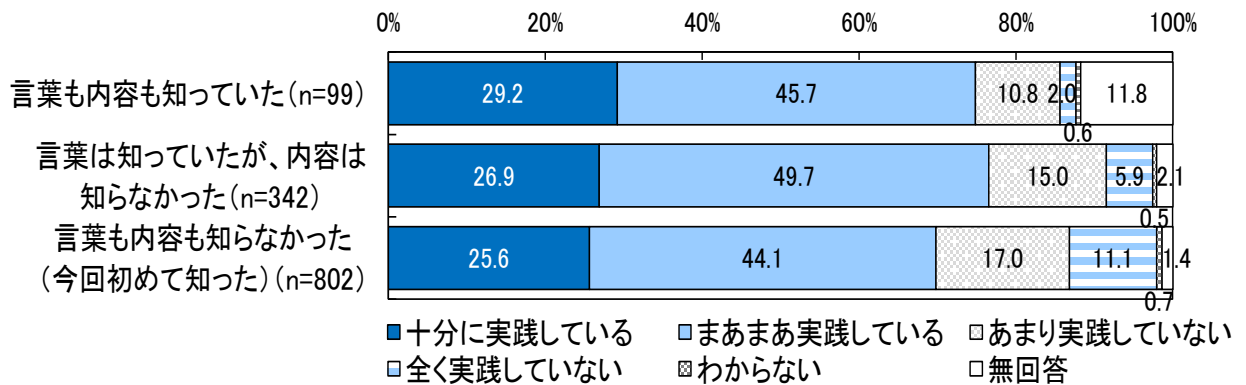
【輪食の実践度（職業別）】



【輪食の実践度（世帯構成別）】



【輪食の実践度（「わ食の日」の認知度別）】



**【環食(環境に配慮した食生活の実践)】**

環食の実践度について、「実践している」(「十分に実践している」+「まあまあ実践している」)者の割合は、全体で78.6%となっている。

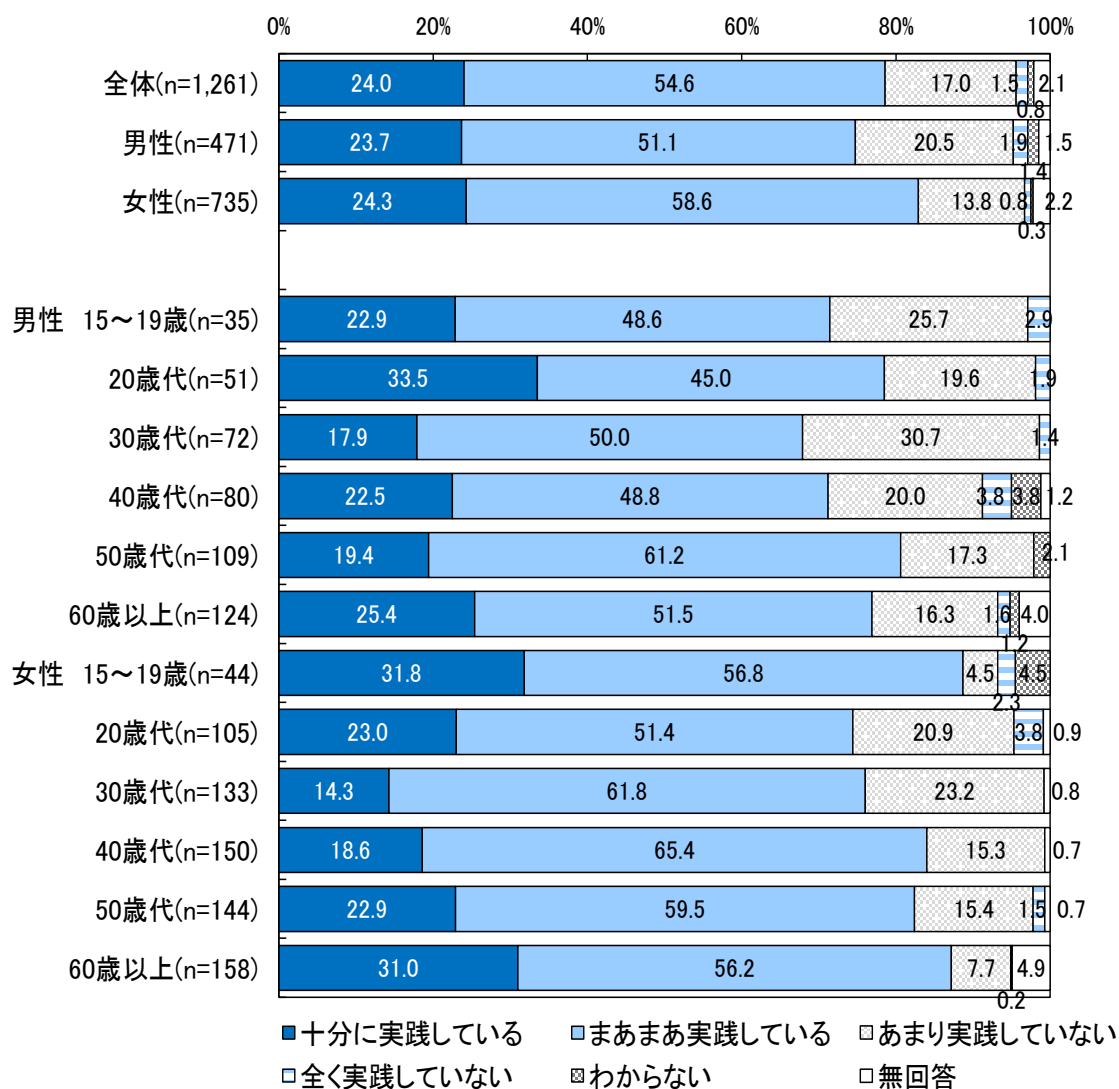
性・年齢別にみると、「実践している」者の割合は、女性(82.9%)に比べて男性(74.8%)が8.1ポイント低く、30歳代男性(67.9%)が、最も低くなっている。

職業別にみると、「実践している」者の割合は、家事従事者(87.2%)で高く、勤労者(76.1%)で低くなっている。

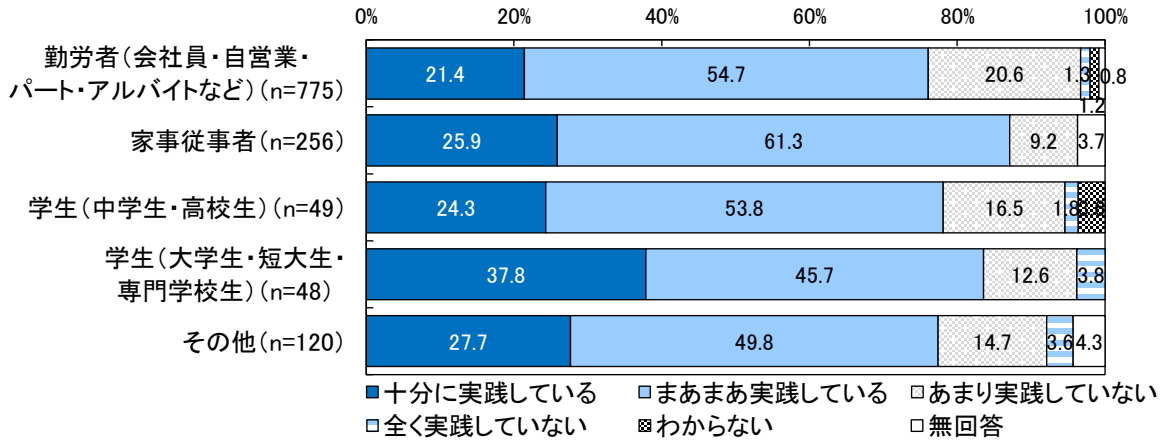
世帯構成別にみると、「実践している」者の割合は、夫婦のみの世帯(85.0%)で高く、ひとり暮らし(73.6%)で低くなっている。

「わ食の日」の認知度別にみると、「実践している」者の割合は、言葉も内容も知っていた者(87.2%)で高くなっている。

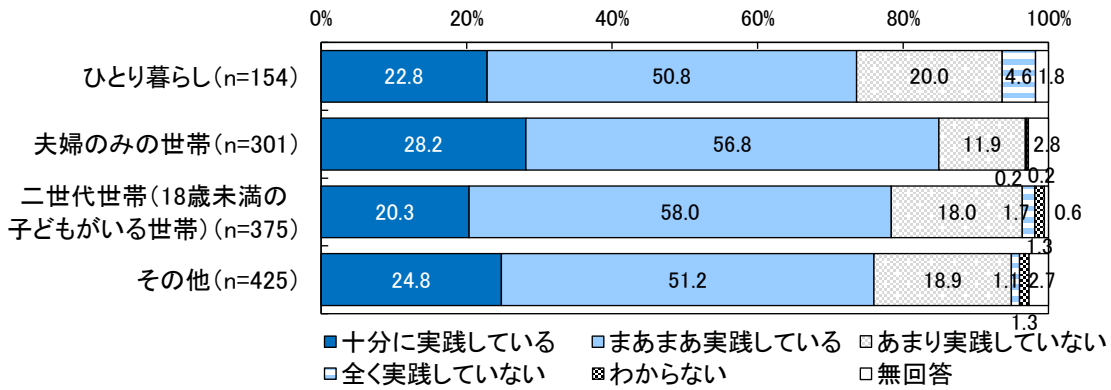
**【環食の実践度(性/性・年齢別)】**



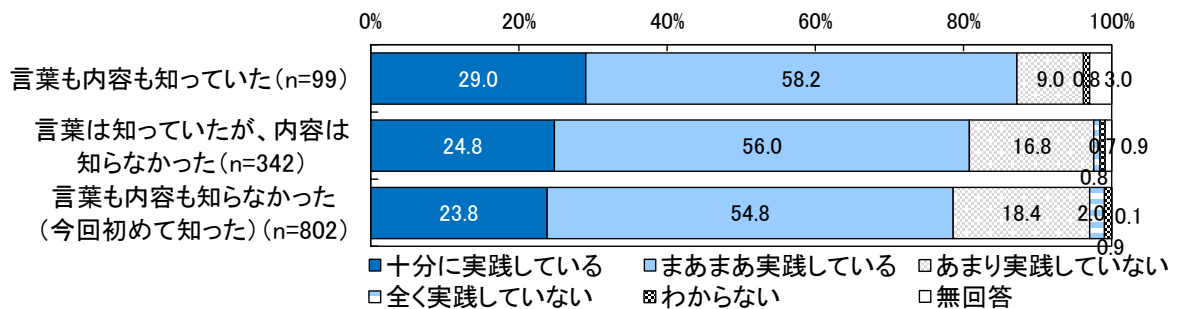
【環食の実践度（職業別）】



【環食の実践度（世帯構成別）】



【環食の実践度（「わ食の日」の認知度別）】



## 4 よくかんで味わって食べることについて

### (1) 「噛ミング30運動」の認知度

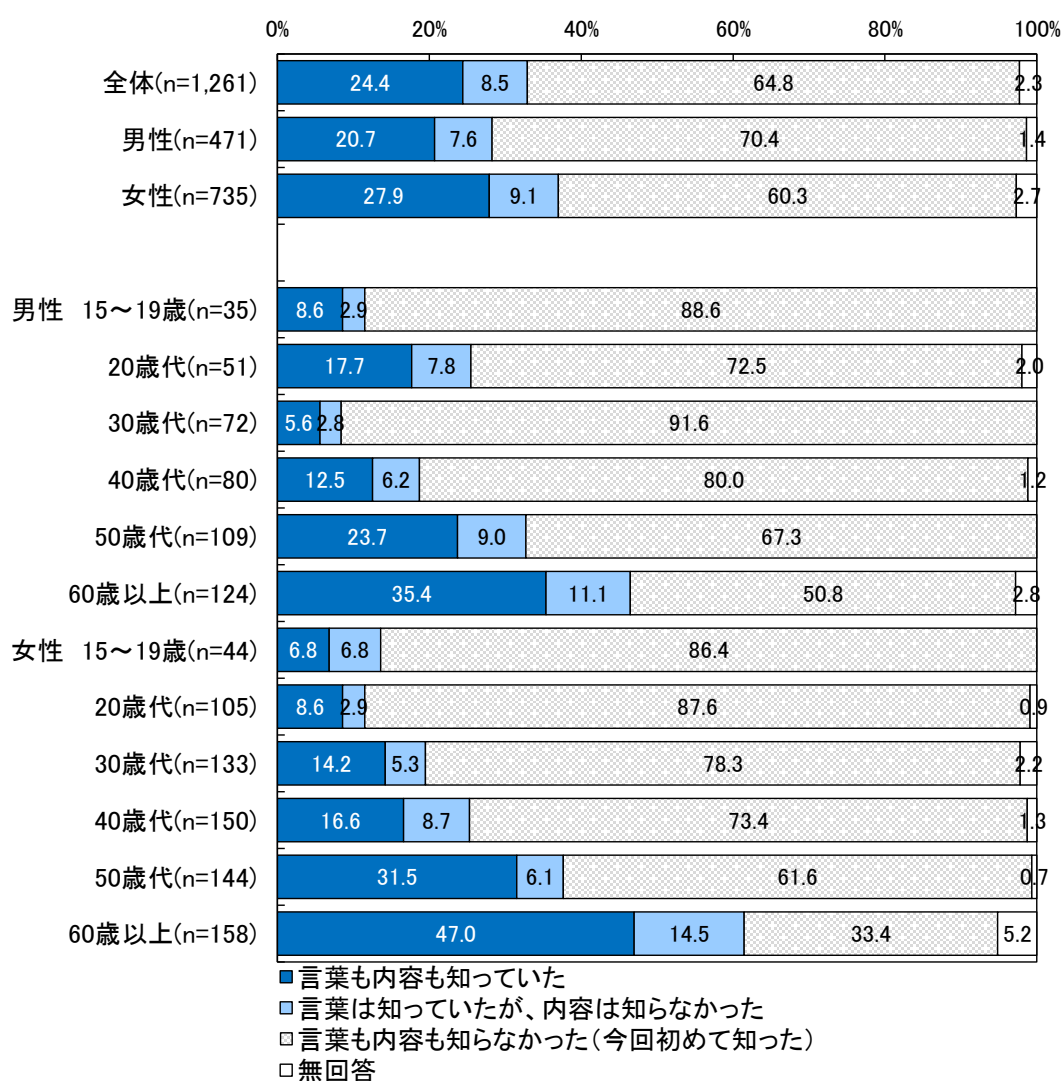
「噛ミング30運動」の認知度について、「知っていた」（「言葉も内容も知っていた」+「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」）者の割合は、全体では32.9%となっている。

性・年齢別にみると、「知っていた」者の割合は、女性(37.0%)に比べて男性(28.3%)が8.7ポイント低く、男女とも60歳以上(男性46.5% 女性61.5%)で高く、15～19歳(男性11.5% 女性13.6%)で低くなっている。

職業別にみると、「知っていた」者の割合は、家事従事者(46.7%)で高く、「中学生・高校生」(8.4%)で低くなっている。

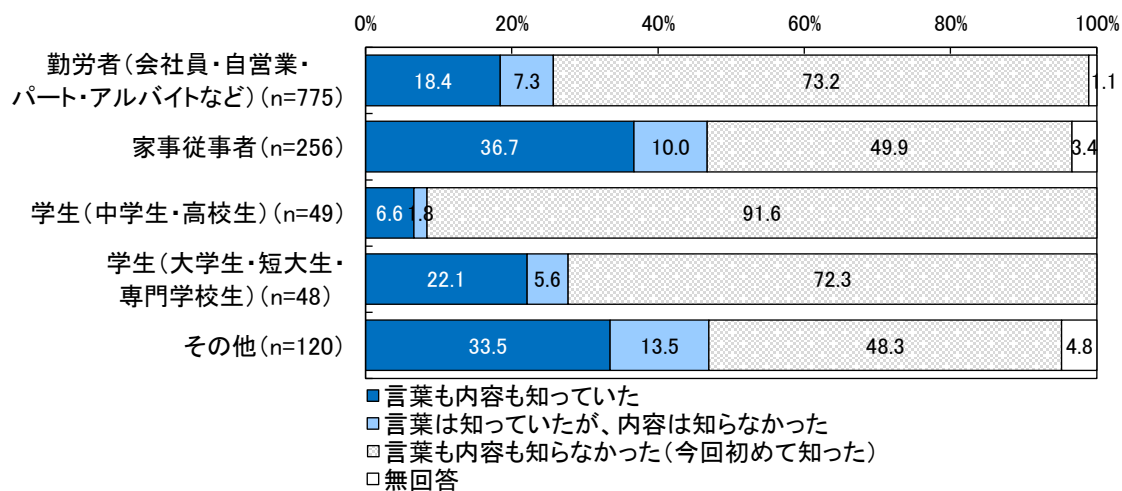
世帯構成別にみると、「知っていた」者の割合は、夫婦のみの世帯(43.7%)で高く、二世帯世帯(18.5%)で低くなっている。

【「噛ミング30運動」の認知度（性/性・年齢別）】

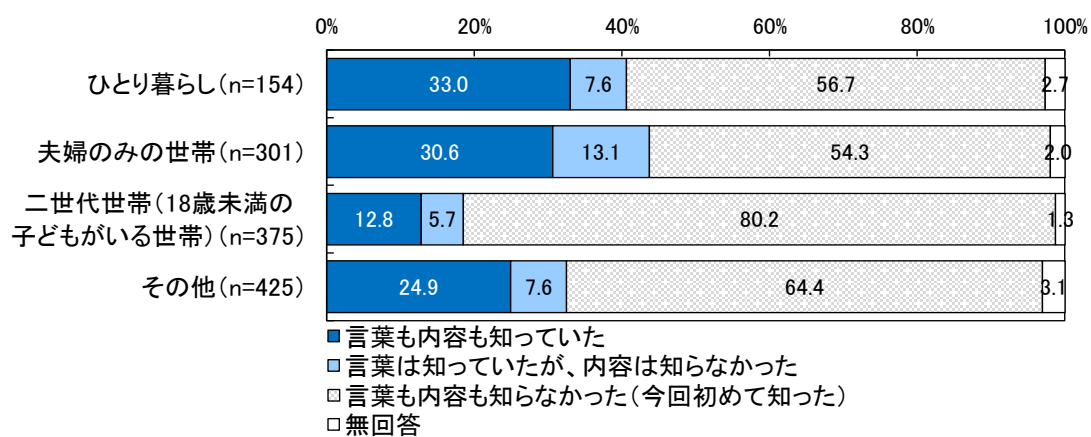




### 【「噛ミング30運動」の認知度（職業別）】



### 【「噛ミング30運動」の認知度（世帯構成別）】



(2) よくかんで味わって食べる食生活の実践度 【目標数値：80%以上】

よくかんで味わって食べる食生活の実践度について、「実践している」（「十分にしている」＋「まあまあしている」）者の割合は、全体で58.1%となっている。

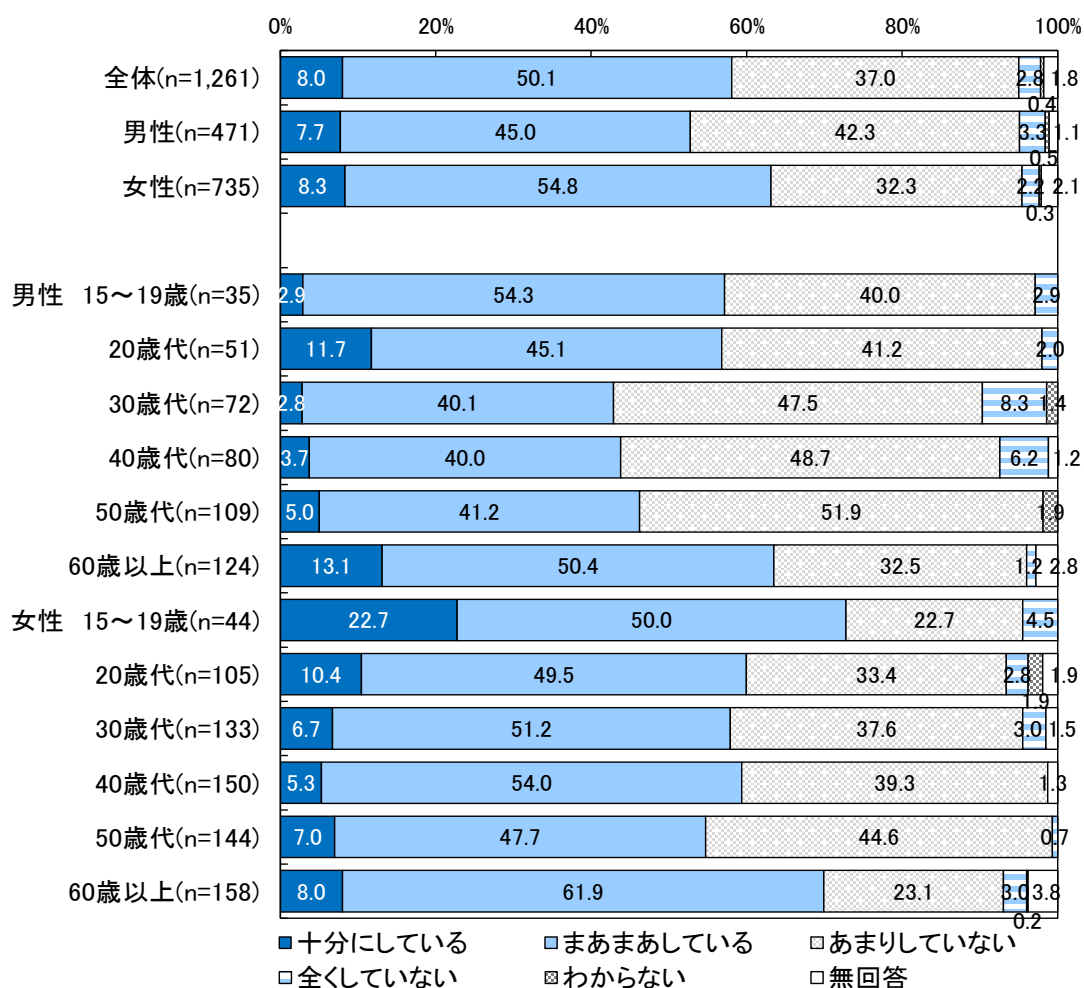
性・年齢別にみると、「実践している」者の割合は、女性(63.1%)に比べて男性(52.7%)が10.4ポイント低く、30歳代男性(42.9%)と50歳代女性(54.7%)で低くなっている。

職業別にみると、「実践している」者の割合は、「大学生・短大生・専門学校生」で高く、勤労者(53.1%)で低くなっている。

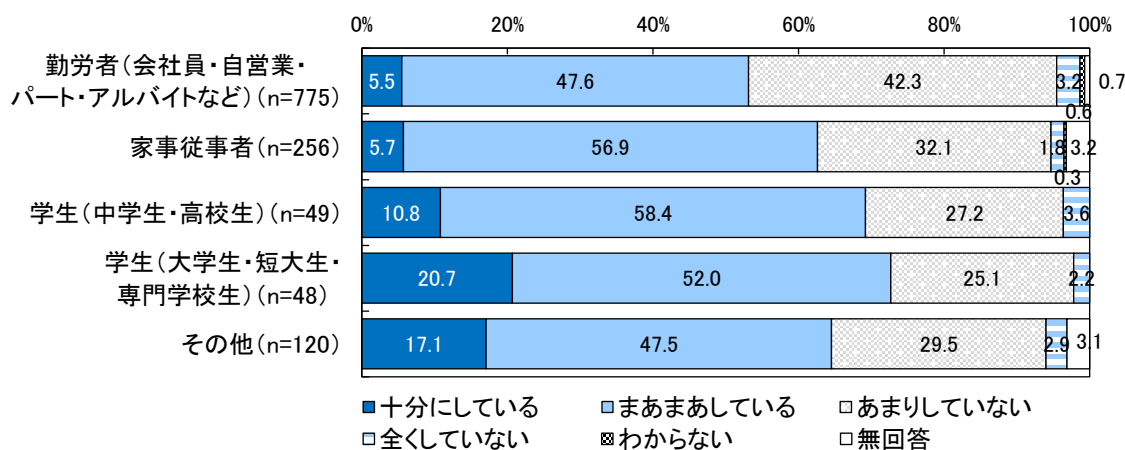
世帯構成別にみると、「実践している」者の割合に大きな差はないが、二世帯世帯(54.4%)で低くなっている。

朝食の内容（組み合わせ）別にみると、「実践している」者の割合は、「主食＋赤色の食べ物＋緑色の食べ物を食べた」者(64.4%)で高くなっている。

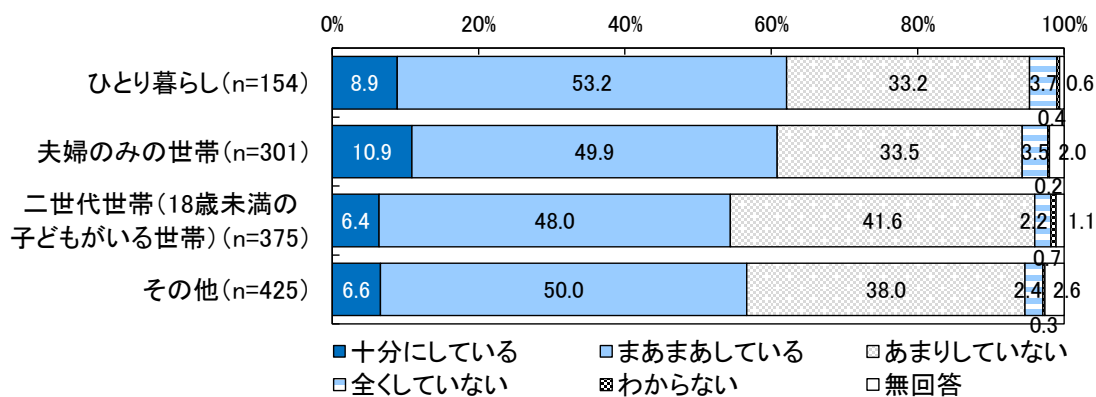
【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（性/性・年齢別）】



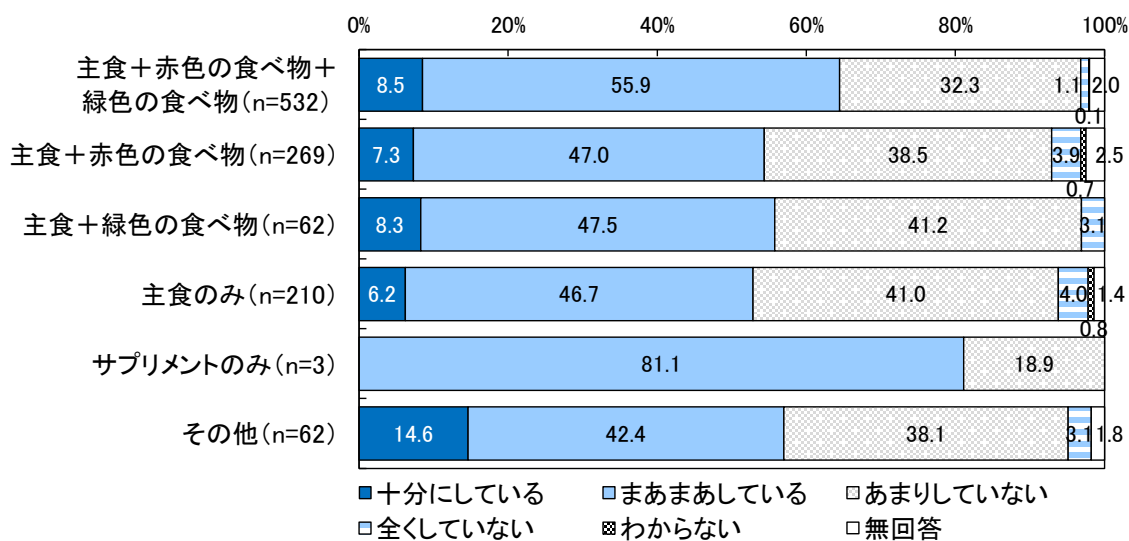
【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（職業別）】



【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（世帯構成別）】



【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（朝食の内容（組み合わせ）別）】



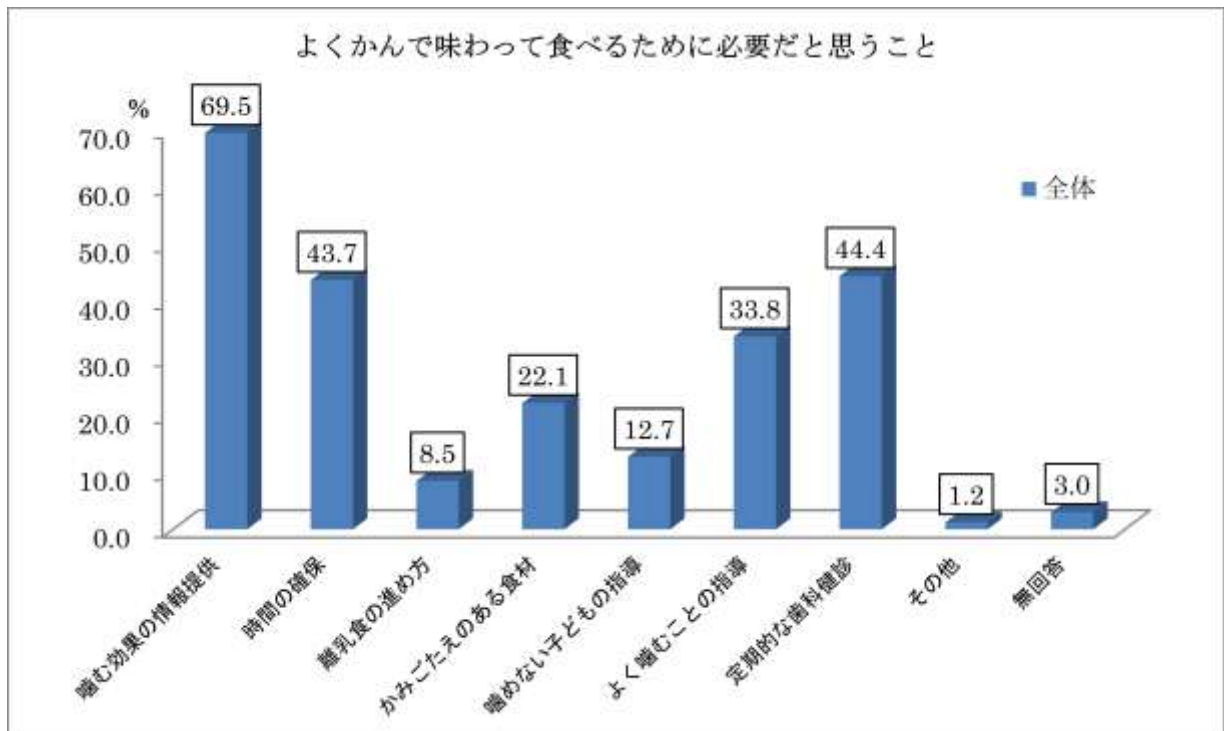
### (3) よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと

よくかんで味わって食べるために必要だと思うことは、全体にみると「よくかんで食べることによる効果についての情報提供」が 69.5%と最も高く、次いで「健康な歯や口を保つための定期的な歯科健診や歯科治療、歯石除去などの予防処置」が 44.4%、「ゆっくり食べる時間の確保」が 43.7%となっている。

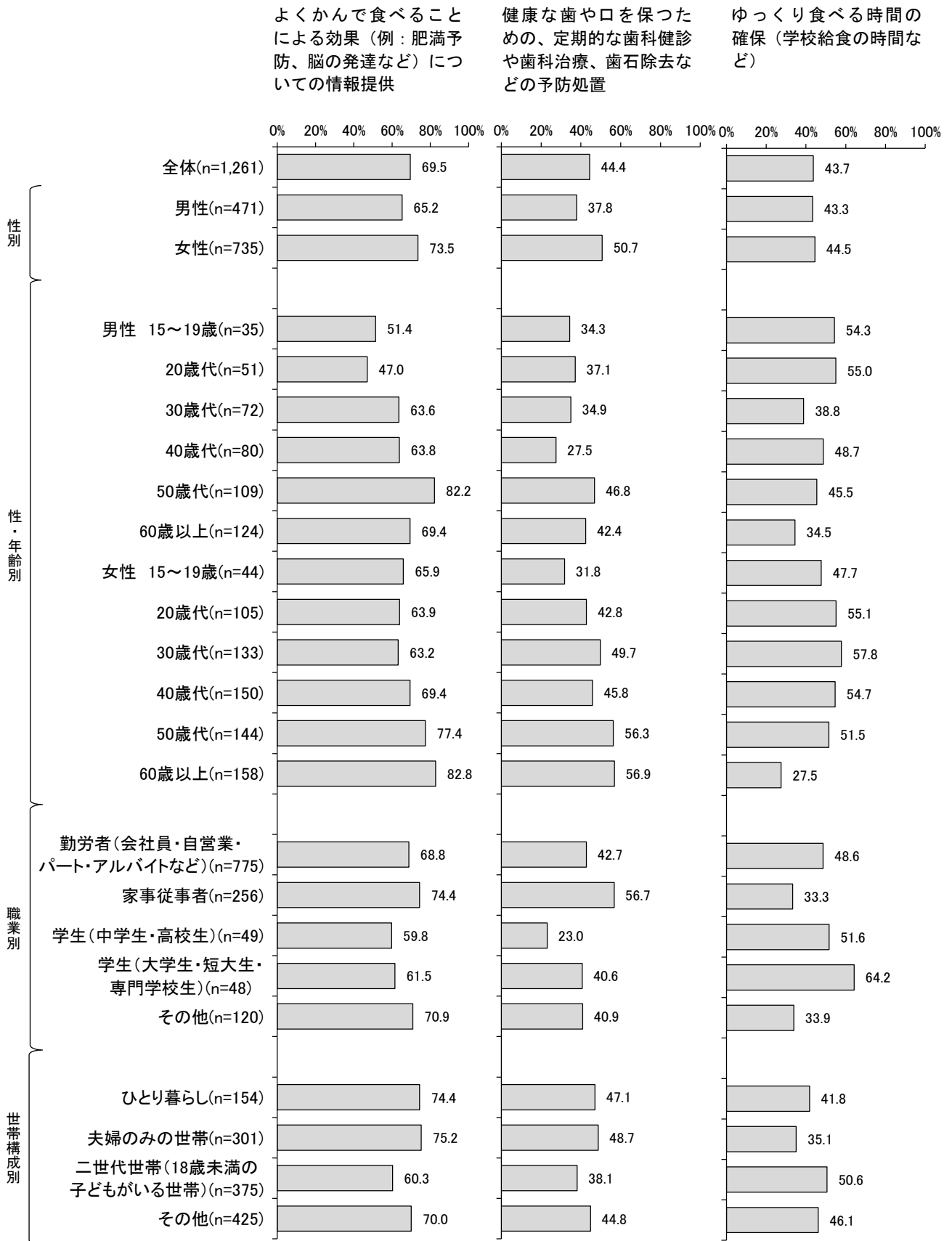
性・年齢別にみると、「健康な歯や口を保つための定期的な歯科健診や歯科治療、歯石除去などの予防処置」は女性(50.7%)に比べて男性(37.8%)が 12.9 ポイント低くなっている。

職業別にみると、「よくかんで食べることによる効果についての情報提供」「健康な歯や口を保つための定期的な歯科健診や歯科治療、歯石除去などの予防処置」は家事従事者(74.4%、56.7%)で高く、「ゆっくり食べる時間の確保」は「大学生・短大生・専門学校生」(64.2%)で高くなっている。

世帯構成別にみると、「ゆっくり食べる時間の確保」「幼稚園、保育園、学校でのよくかんで食べるための指導」は二世帯世帯(50.6%、41.2%)で高くなっている。



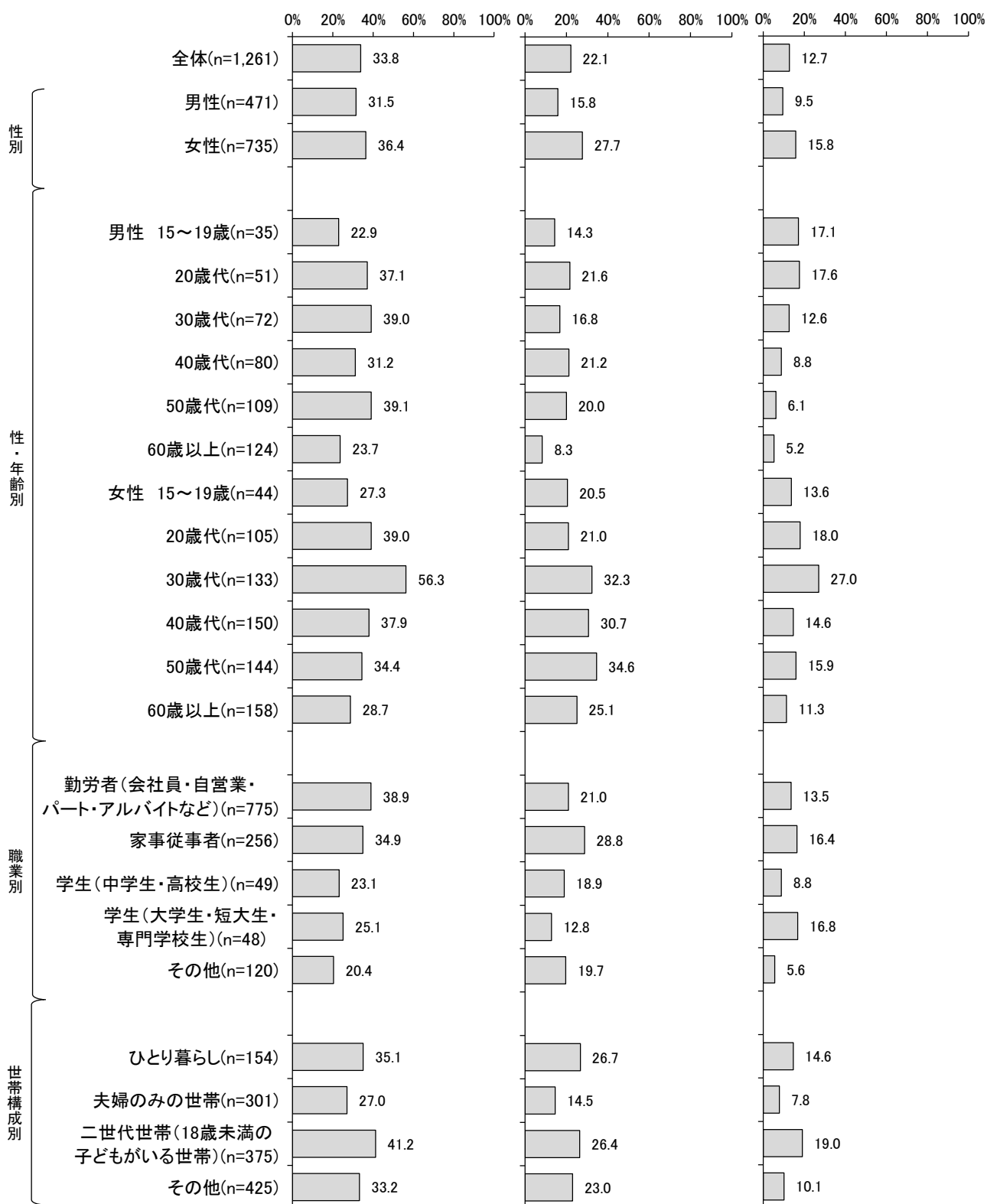
【よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと（性/性・年齢/職業/世帯構成別）】



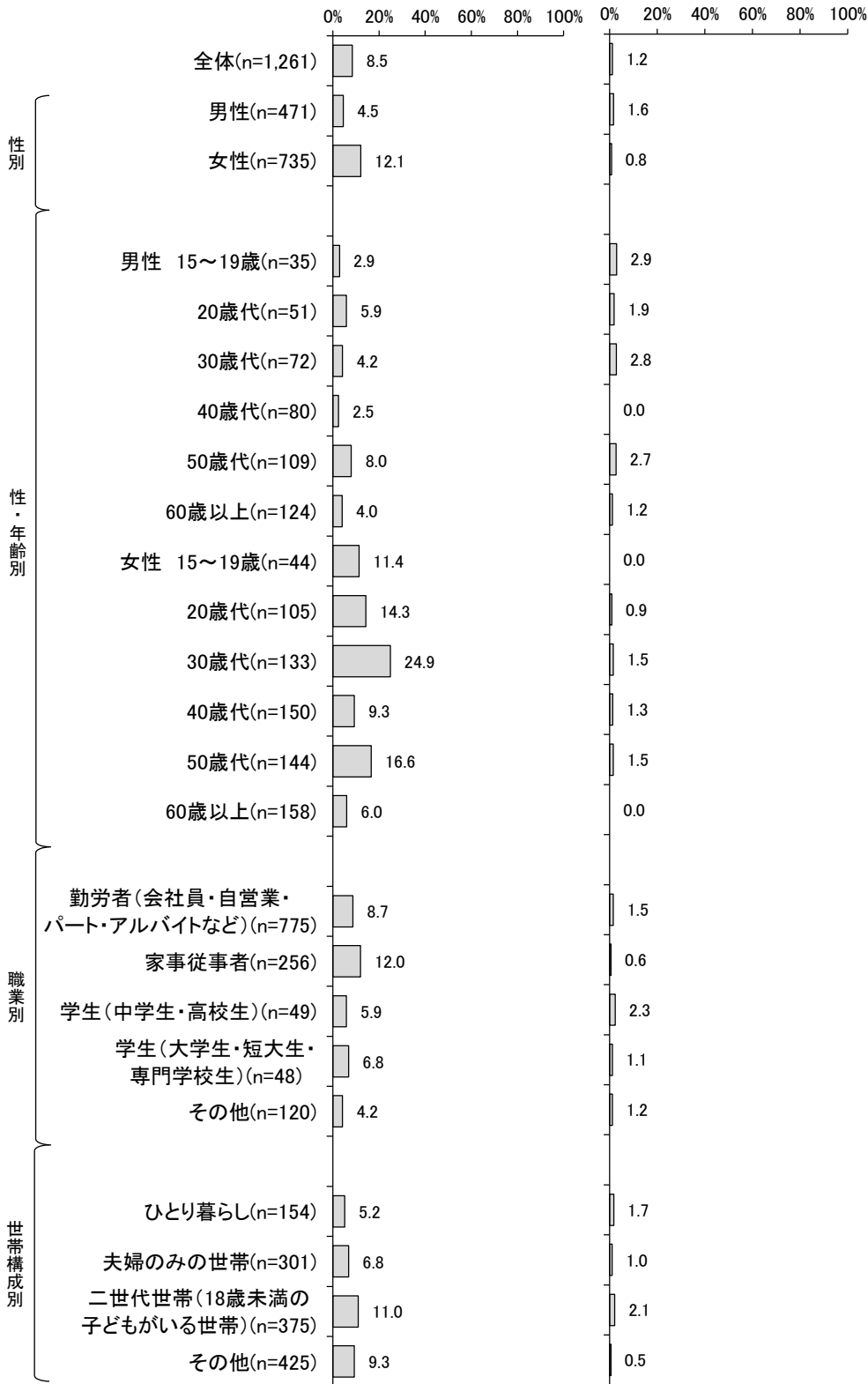
幼稚園、保育園、学校で  
のよくかんで食べるた  
めの指導

かみごたえのある食材  
を使った料理のレシピ  
の提供

食物をかまない、口の中  
にためたまま飲み込ま  
ない子どもについての  
指導



離乳食の進め方など、乳  
児期から気をつけたい  
ことの情報提供



## 5 健全な食生活の実践について

### (1) 「健全な食生活」の実践度 【目標数値：80%以上】

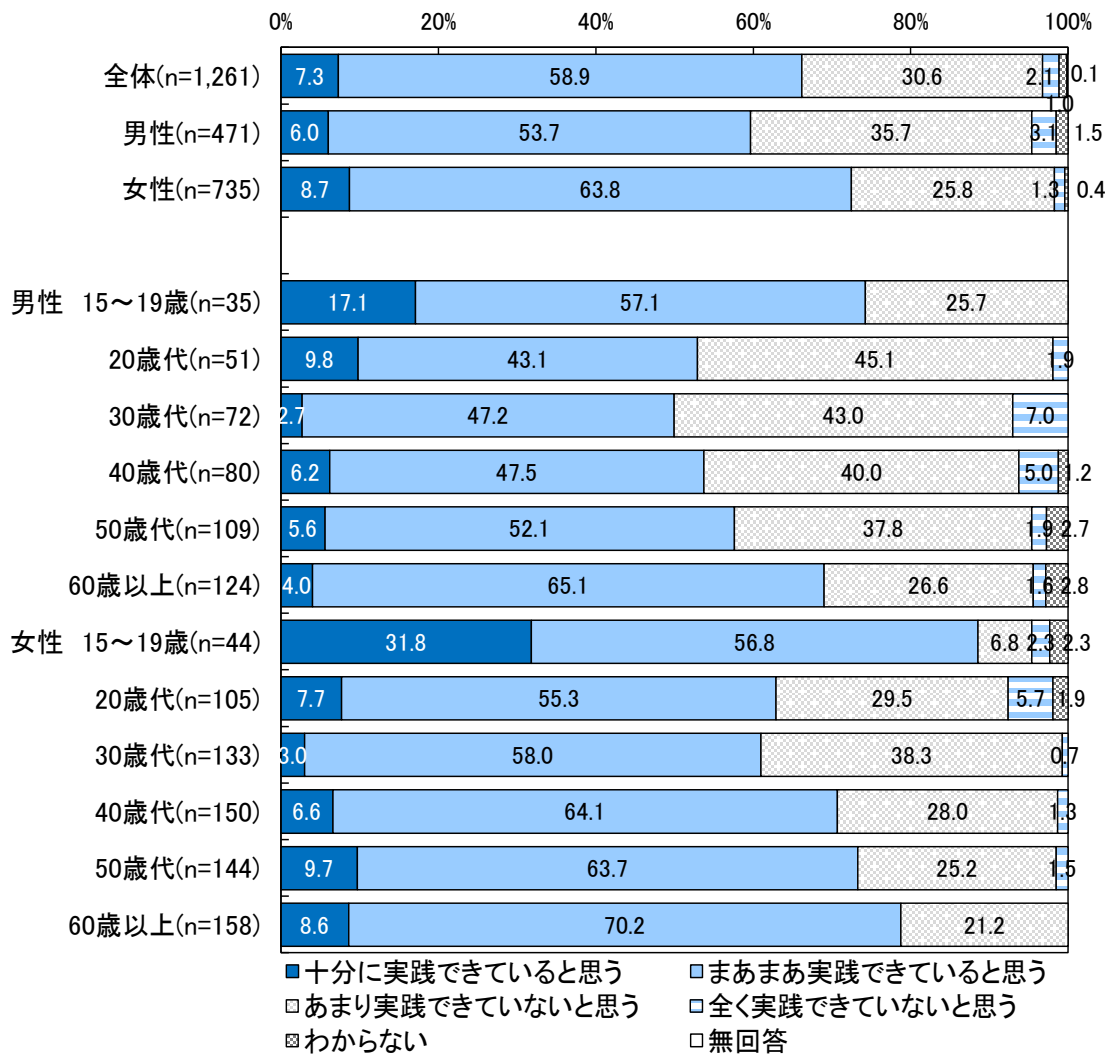
「健全な食生活」を「実践できていると思う」（「十分に実践できていると思う」＋「まあまあ実践できていると思う」）者の割合は、全体では66.2%となっている。

性・年齢別にみると、「実践できていると思う」者の割合は、女性(72.5%)に比べて男性(59.7%)が12.8ポイント低く、男女とも30歳代(男性49.9%、女性61.0%)で最も低くなっている。

職業別にみると、「実践できていると思う」者の割合は、「中学生・高校生」(83.4%)で高く、勤労者(62.8%)で低くなっている。

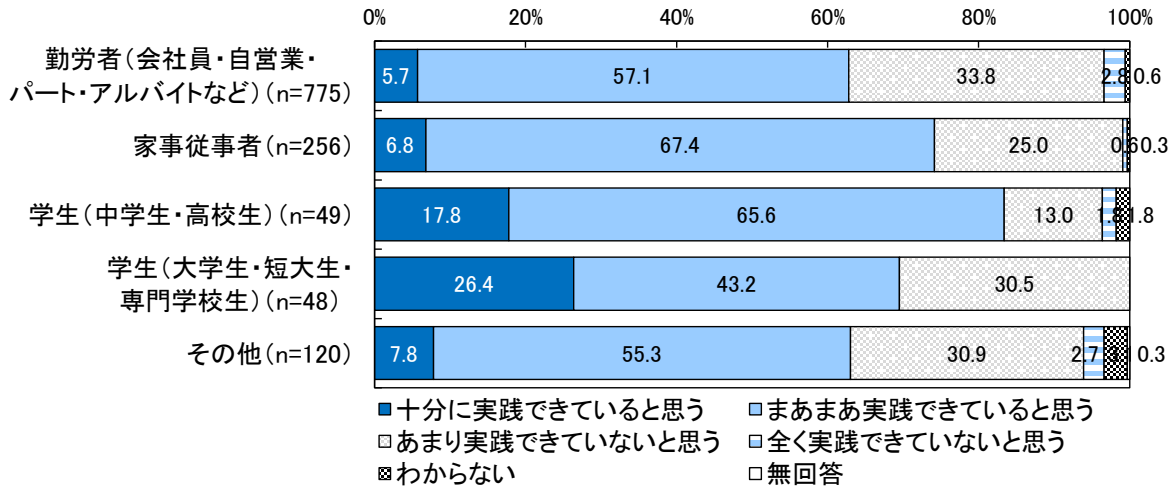
世帯構成別にみると、「実践できていると思う」者の割合は、夫婦のみの世帯(72.7%)で高く、ひとり暮らし(51.8%)で低くなっている。

【「健全な食生活」の実践度（性/性・年齢別）】

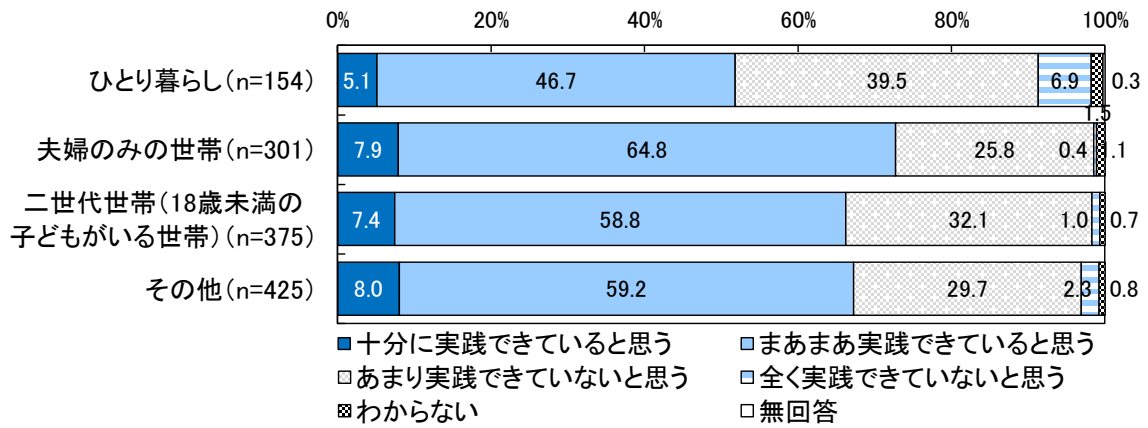




【「健全な食生活」の実践度（職業別）】



【「健全な食生活」の実践度（世帯構成別）】



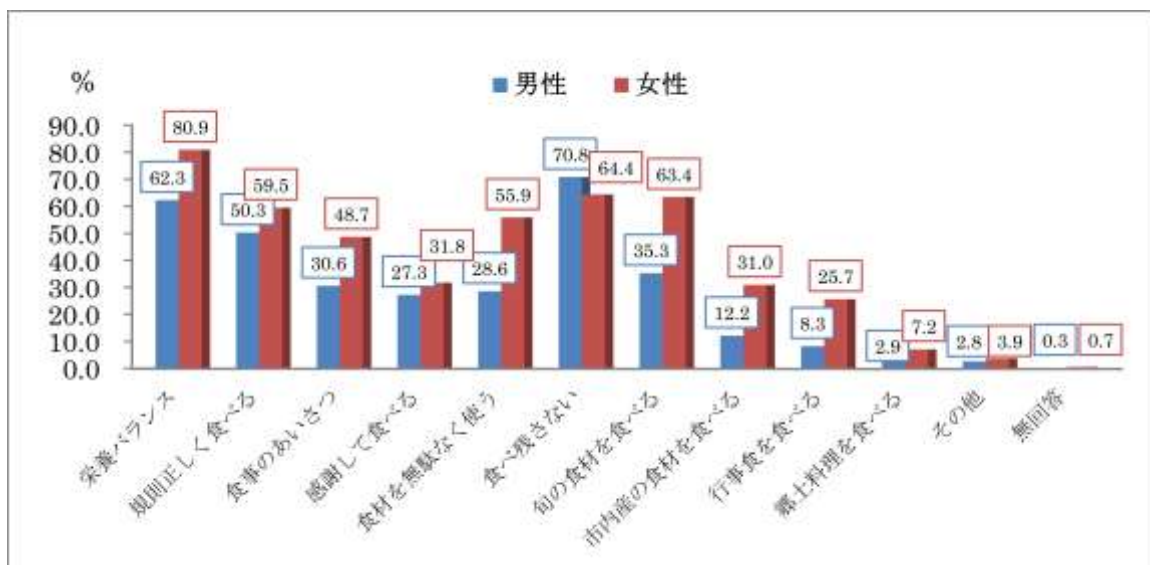
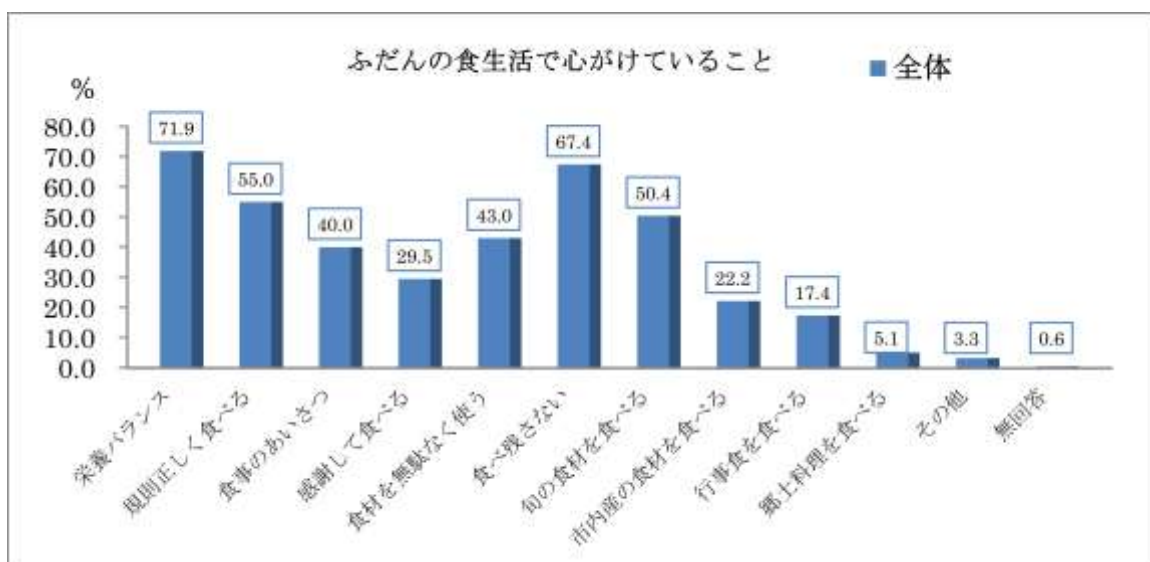
## (2) ふだんの食生活で心がけていること

ふだんの食生活で心がけていることについて、全体では「栄養バランスに気をつける」が71.9%と最も高く、次いで「食べ残さない」が67.4%、「規則正しく食べる」が55.0%となっている。

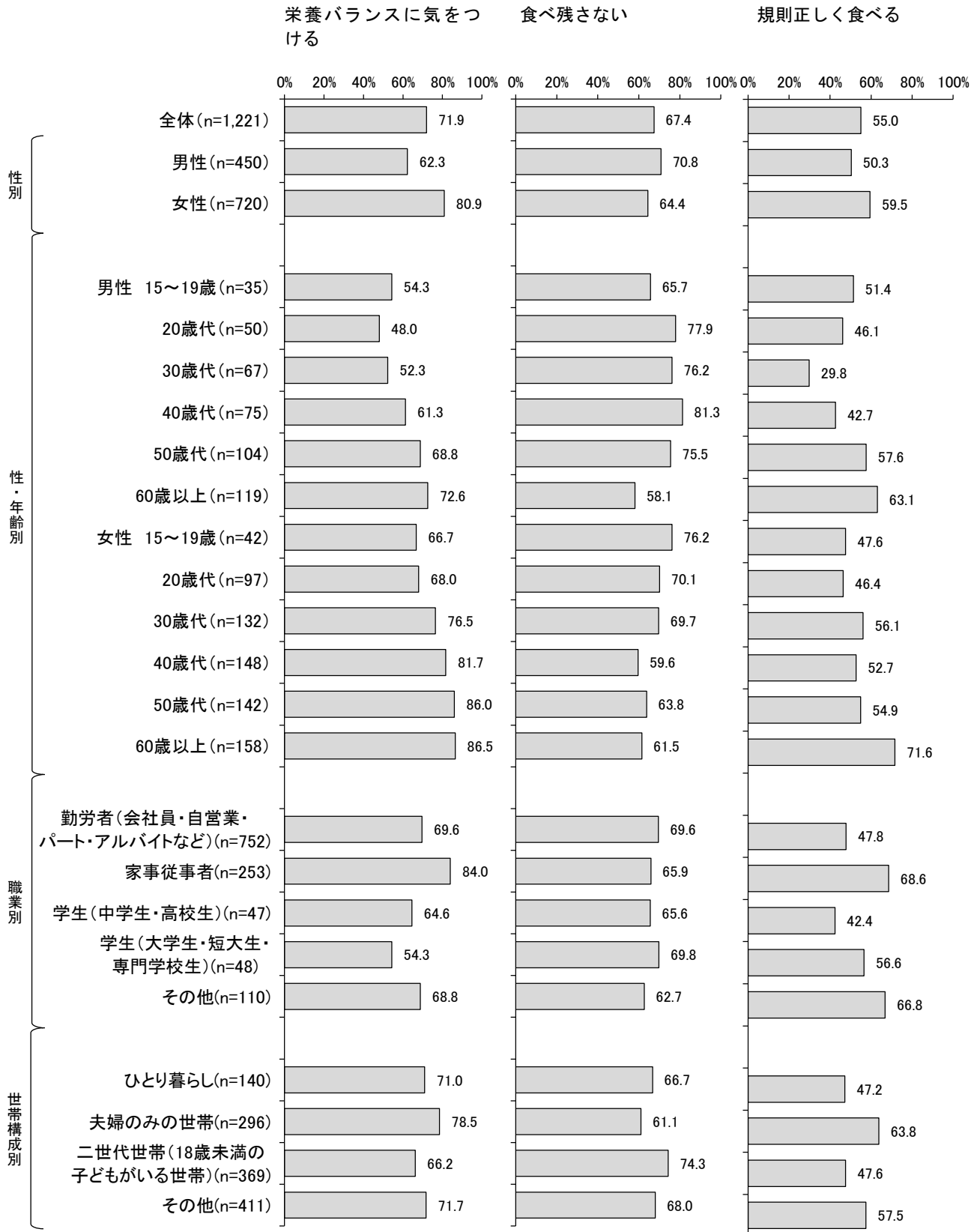
性・年齢別にみると、「食べ残さない」こと以外は、全て女性に比べて男性の実践度が低く、「規則正しく食べる」、「食材を無駄なく使う」、「旬の食材を食べる」、「県内産や市内産の食材を食べる」ことへの意識は、30歳代男性で特に低くなっている。また、「食事の前後のあいさつをする」ことは、60歳以上男性(19.9%)で低く、「感謝して食べる」ことは、20歳代男性(18.0%)で特に低くなっている。

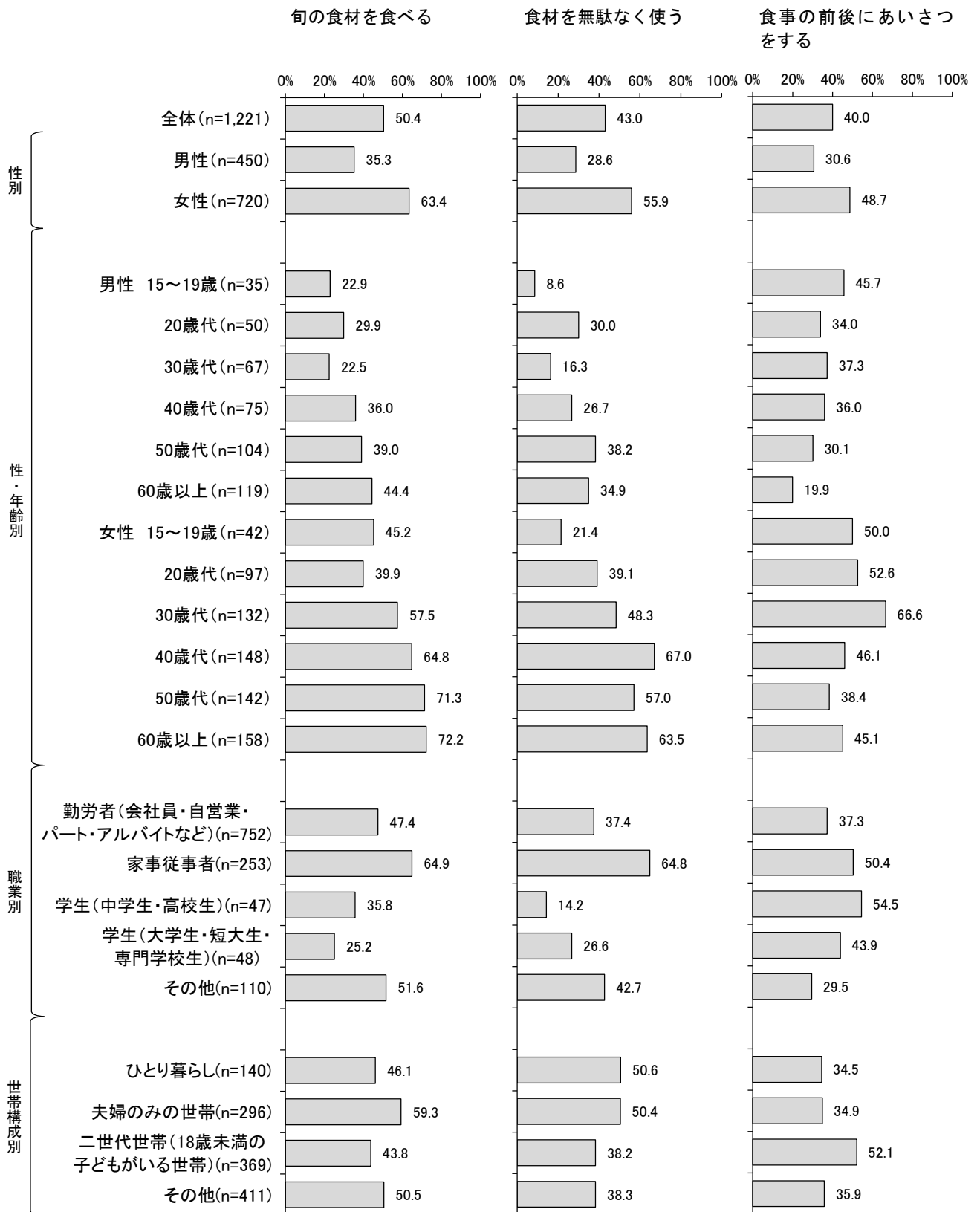
職業別にみると、「栄養バランスに気をつける」「規則正しく食べる」「旬の食材を食べる」「食材を無駄なく使う」「県内産や市内産の食材を食べる」ことへの意識は、家事従事者が他に比べて大幅に高くなっている。

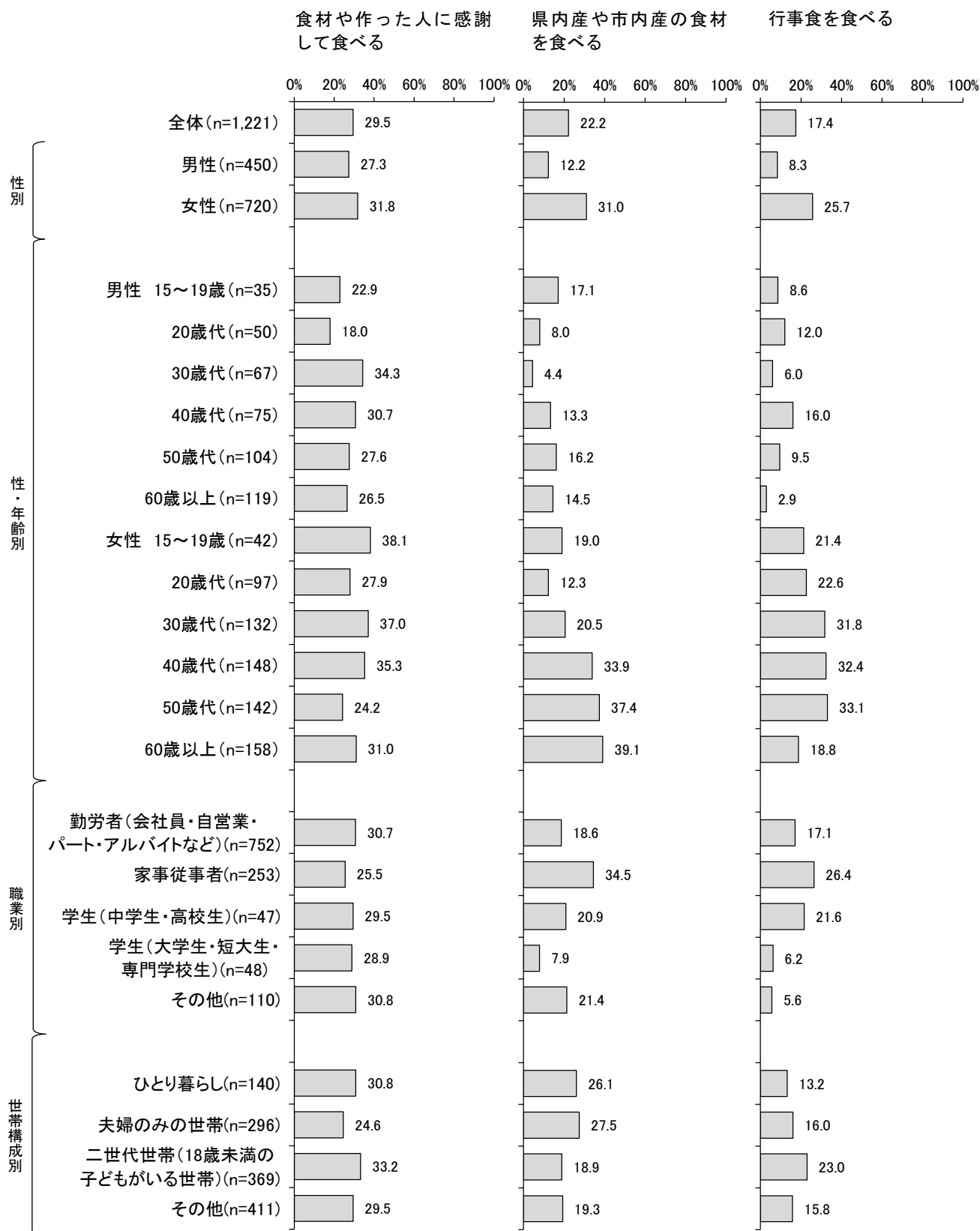
世帯構成別にみると、「食事の前後にあいさつをする」は二世帯世帯(52.1%)で高くなっている。



【ふだんの食生活で心がけていること（性/性・年齢/職業/世帯構成別）】







広島の郷土料理を食べる      その他

